

第1話 ごあいさつ

☆夜も更けた頃のアンジェの自室。繕い物に没頭するアンジェの背中から、「ご主人様」が抱きつく。初めは驚いたアンジェだったが、「ご主人様」の荒い息遣いから事情を察し、蠱惑的に口角を引き上げる。

(00:00)

……あら、おズボンのこんなところにも穴が。ふふ、日増しにやんちゃになられて、アンジェもお世話のしがいがあるというものです。さて、もう一息入れて、縫い物を終わらせてしましましょう……きゃっ！？

(00:21)

お、おぼっちゃまでしたか……ふふ、このような真夜中にいかがなさいましたか？ わたくしがベッドのそばにいてさしあげないと寝付かれなかったのも、ずいぶんと昔のことですわね。久しぶりに子守唄でも歌ってさしあげましょうか……あん♪ あら、いやですわ、ほんの冗談です……そんなにきつく抱き締められずとも、アンジェは逃げなどしません。おぼっちゃまに触れていただけているだけで、心臓が止まってしまいそうなんですもの♪

☆アンジェは振り向くことなく、「ご主人様」を愛撫するようにゆったりと言葉を吐き出す。

(01:03)

ええ、わかっております……「そういうこと」、なのでしょう？ 首筋にかかる荒い息、かすかに動く指先……それから、背もたれがない椅子なので、ぼっちりとわたくしに当たってしまっていますわ……おぼっちゃまの、熱くて、硬あい、オ・チ・ン・ポ♪

☆「ご主人様」のうぶな反応に気をよくし、アンジェは次々とあけすけな言葉を口にする。

(01:37)

あらあら、わたくしがお名前を口にただけでびくびくとお動きになってしまうのですね、ねえ、オチンポ様♪ びくん♪ チンポ♪ びくびくっ♪ オチンポお……♪ むく、むく、むく♪ ふふ、申し訳ございません。おぼっちゃまが可愛らしくて、ついついいたずら心が出てしまいました。どうか、この無礼なメイドめを肉鞭で打ち据え、躰をお施しになってくださいまし……♪

☆アンジェが椅子から立ち上がり、「ご主人様」の股間の膨らみの前にひざまずく。待ちきれないといった様子で舌なめずりすると、ズボンのウエストに手をかける。

(02:23)

ですがその前に、一度腕をお離しくださいます。椅子の座面が濡れてしまつては困りますから♪ .....ありがとうございます。それでは、よいしょ。椅子もどかして.....おぼっちゃまは動かれなくとも結構ですよ。わたくしが、こうして膝をつき.....ふふ、布地を大きく持ち上げた若々しい限りの膨らみに、顔を近づけてしましましょう.....じゅるり♪

(03:13)

おやおや、おズボンに手をおかけしただけで、イライラ、イライラ♪ 一刻も早くわたくしを這いつくばらせて、一匹のメスに変えてしまいたい♪ メイドだのと上品ぶっても所詮は、性処理用の玩具にも劣る種汁ぶちまけお便器なのだとわからせてやる♪ あ.....んっ♪ んっ、ふふ♪ 猛々しく尖ったオチンポから、べとべとと濃ゆい淫欲が放射されて♪ アンジェ、はしたなくも蜜を垂らしてしまいました♪

☆アンジェもまた興奮し、普段より荒い息遣いで「ご主人様」のペニスを露出させる。露わになったペニスに目を輝かせ、つぶさに観察する。

(04:01)

はい♪ おぼっちゃまのご令息様、このアンジェが責任を持って自由にしてさしあげます♪ それではおパンツごと、ずるずるずる.....あら、あらあら♪ 素敵です、素敵ですわおぼっちゃま♪ はあ、はっ♪ 未使用オチンポ、昔となんらお変わりなく♪ きゅっとつぶんだ包皮の隙間から、まだ熟しきらないイチゴのような先端がのぞいて.....う、んあっ♪ ぴこぴこ跳ね回っていらっしゃるおサオを.....ぎゅ♪ ふふ、こうしておててに収めるのにはちょうどいいサイズですわ♪

☆ペニスの先端に鼻を近づけ、においを存分に吸い込み始めるアンジェ。熱っぽい物言いで「ご主人様」の恥ずかしい部分を言い当て、もじもじとしている隙にまたペニスとの距離を縮める。

(05:02)

ほおら、オスに飢えたメイドの鼻面にそんな、猛り狂った先っぽを近づけてしまうと.....すん、すん.....んんっ♪ 磯の香りの中にかすかに漂う、男の子のにおい.....ごくり♪ おぼっちゃまったら、アンジェの知らない間に悪い遊びをお覚えになったのですね♪ 毎晩、毎晩、おパンツをお下ろしになって.....♪ おふとんの中でオチンポを.....シコ、シコ、シコ♪ 柔らかおててで、いけない手遊び♪ お・な・に・い♪ していращやるのでしょうか？

(06:01)

ふふ、おぼっちゃまが隠されるのでしたら、オチンポ様に直接伺いますわ……オチンポ様♪ あなたは昨晚も、びゅう♪ と新鮮で青臭い白濁を吐き散らかされましたわね？ ちり紙の中か、シーツにこっそり染み込ませたのかはわかりませんが……それから、その白濁……精液を尿道にお送りになったのは、この小さくてふにふに柔らかなキンタマ様……間違い、ございませんね？

☆アンジェはねっとりと「ご主人様」の羞恥を煽り、わかりやすいエサをぶら下げ、ますます言うなりにしていく。

(06:42)

ぴこん、ぴこん♪ あらら、股間は素直に自白なさっていますのに♪ おぼっちゃまだけが仲間外れ♪ 正直者にはよいことがある、とアンジェはいつも申しておりますわね？ そう、「お口」を酸っぱくして……じゅる、ちゅるる♪ ああ、なぜだか、かすかにとろろとした人肌の唾液が止まりませんわ♪ いま口の中に「何か」をおくわえ申し上げたら、すぐさまべとべとに汚れてしまうでしょうね……♪

☆アンジェはしゃがみ込んだまま、「ご主人様」を見上げる。目が合うことを知っていたかのようににやりと微笑み、言葉を一つ一つ区切りながら息混じりに詰問する。

(07:30)

うふふ、ではもう一度質問をば……おぼっちゃまは、床に就くたびに、お股に手を伸ばして……硬あくなってしまったオチンポを、シコシコと弄んでいらっしゃいますね？ しかも、幼少のみぎりからおぼっちゃまをお世話さしあげている、このアンジェめの肉体を劣情のまま穢すことを思い浮かべて……お射精♪ なさっていますよね……じゅるう♪

☆一も二もなくうなずく「ご主人様」の姿を目にすると、アンジェは思わず身体を震わせる。すぐさま目の前の股間に視線を戻し、満を持して唇をペニスの先端に張り付ける。

(08:14)

はあい♪ 正直者のおぼっちゃまとオチンポ様にはご褒美を差し上げます♪ 暴れん坊なお膝の裏にこうして、腕を回してさしあげて……ん、ふふっ♪ おぼっちゃまが何度妄想なされたかわからない、わたくしのフェ・ラ・チ・オ♪ お口でこの勃起オチンポを食べてさしあげますね♪ はあ、あっ……待てとおっしゃっても、待ちません♪

☆アンジェは唇の小さな隙間をペニスで押し広げるようにして、口中に収めていく。肉幹を唇で覆い、湿った口腔奉仕の音をだんだんと早めながら、ときどき「ご主人様」に視線をやって反応を確かめる。

(08:59)

先っぽに、ちゅう♪ 上と下の唇の間に……ぬるるるるう♪ ちゆる……ちゅぶ、ずう、ず♪ むう、ぬるう～っ♪ んうう、はあっ♪ しょっぱくてむわりと濁った「ご主人様」の味が口内に広がってえ、んん、ああ♪ はぶう、むう、るる♪ ちゅうう、ちゅっぽ♪

(09:39)

ああ、むっ♪ れるるう♪ おやおや、鈴口にぷくう♪ と透明なお汁が湧いてきましたわ……♪ はぶ、んちゅ、くぽ、くぽっ♪ お膝をがくがくなさって、しょっぱいカウパー汁どおんどんこぼれて……感じて、いらっしゃるのですね♪ 気持ちよくて勝手にチンポがお汁を分泌してしまうのです、よねっ、んむう、じゅぷっ♪

☆アンジェは「ご主人様」の膝をますますがっしりと固定し、自らの昂りのままいじきたなくペニスの隅々まで舌と唇を這わす。そしてさらに致命的な部分へ踏み入れようと、怪しい光を目に宿す。

(10:22)

はあ、あんっ♪ わたくしも、おぼっちゃまの我慢汁と競うように、愛液を、お、噴いてしまえますっ♪ ……んぶっ、がぽっ、ぐぷぷ、れろお……っ♪ 唇でぬもぬもとお竿をしごいてさしあげているうちに緩んできた、包皮の先端♪ んっぷ、ぬちゅ、じゅるう♪ んはっ、わたくしの唾液でとろかして♪ はっ、あ、ああ♪ ずるり♪ と剥いてしまったら、どんな味が、どんな、においが……♪ と考えただけでアンジェはもう、もう……はむ、ちゅ、ちゅうっ♪ れるるるう♪

☆未知の快感の到来におびえる「ご主人様」はしかし、がくがくと身体を震わせ、とぎれとぎれに制止することしかできない。アンジェはときおり悶えるように切なげな声を上げながらも「ご主人様」を意に介さず、遠慮なく包皮を剥き下ろす。

(11:25)

う、ふふ♪ もう、うなずいていらっしゃるのか嫌がっていらっしゃるのかわかりませんが、んふっ♪ アンジェはご主人様……の、チンポ♪ を、第一に考える悪いメイドですので♪ はあっ、こうして皮のはじっこにぴったりと唇をくっつけてしまって……ぬちゅ♪ ひふおいひに(一息に)、んっ♪ ふうう……ずう、ぬるるるうう♪

☆戦利品を眺めるように、露出した亀頭に悠長に挨拶などしているアンジェに対し、すでに快感の閾を超えた「ご主人様」。芝居じみた言動で劣情をさらに煽ろうとしたアンジェはちらりと「ご主人様」を見上げ、事態を察してふと我に返る。

(12:14)

ぷ、はあっ！ はあ……剥けました♪ お久しぶりですわ、おぼっちゃまのつるぴか新品亀頭様♪ うふふ、お返事でもなさるみたいに鈴口がぱくぱくと震えて……って、きゃっ、きゃああ♪ ああ～んっ♪ 出会って数秒の女の顔にカウパー汁マーキングなさるなんて……あら？ おぼっちゃま、どうなさいました？ そんなにぐったりとなさっては、まるで……包茎包皮をずるりと剥き下ろされただけで、絶頂なされたようではありませんか……

☆アンジェは「ご主人様」のあまりの弱々しい絶頂に茫然自失となり、うわごとのように危うげな言葉を呟く。

(13:02)

……え？ いえ。いえいえ。だって、卑しいわたくしの顔に張り付いたお汁はこんなにもさらさらとして、ほら、指でこんなにきれいに拭き取れてしまうのですよ……？ ああ、そうだわ、味も見てみればはっきりいたします。ふふ、ザーメンどころかカウパーまで味わいつくさねば足りないとは、メイドのくせになんと強欲で色狂いな……くぷ、ちゅ♪ れろお……ほんのわずかに苦く、ほんのわずかにツンとくるにおい……間違いなく精液、ですわね……

☆アンジェは小さな声で何か言いながらしばし考えこむと、得心がいったようにうなずく。

(13:55)

嘘よ。嘘ですわ。わたくし自慢のおぼっちゃまの絶頂がこんなにもあっけないわけが……それに、精液だって……んくっ。簡単に飲み込めてしまうほど薄くて、まるで水だなんて。あら、あらあら、どうしましょう……ああ、ああ、なるほど！ 「そういうこと」ですわね……♪

☆ぱっと「ご主人様」のほうを向き、その身体を抱きとめるアンジェの表情はまるで貼り付けたような満面の笑みで、声色も過剰なまでに明るい。しかし快感に浮かされた「ご主人様」がその裏の意図を見抜けるはずもない。

(14:30)

……さあ、おぼっちゃま！ お疲れになったでしょう。そうですわよね、ろくに触れてもいらっしやらなかった生亀頭に、ぷっくりとした唇でちゅうっと接吻♪ されてしまったのですから、わけもわからぬままに叫んでお射精なさるのもしかたございませんわ♪ さあ、アンジェに身体をお預けになって……ふふ、上手にお射精なされて偉い偉い、ですわ♪

☆「ご主人様」を床に座らせ、「お菓子」を探すと言うアンジェ。立てた人差し指を口に当て、いたずらっぽく微笑んでみせる。

(15:14)

それでは、アンジェは少々探し物をいたしますので、おぼっちゃまは、よいしょ……ぺたん、とお座りいただいて。はい、何を探すのか……ですか？　そうですね、本当は秘密にしておいてびっくりさせてさしあげたかったのですが……とっても温かくておいしい、お菓子のようなものでございます。ふふ、机周りが散らかっていて少々気恥ずかしいので、目を閉じてお待ちくださいませ……

☆あきらかに探し物に似つかわしくない嬌声を漏らしながら、アンジェは「お菓子」……「ご主人様」の粗末なものとは比べ物にならないふたなりペニスを取り出し、ゆっくりと「ご主人様」に忍び寄る。

(16:00)

んあっ、うう♪ ショーツを下ろし……ふふっ♪　ぐっしょりと重くて、手を添えただけでずるずる脱げっ、はああ♪　あっ♪　出ましたわ～♪　出てきてしまいました、硬くて太おい……ん、うう♪　あなたが一度屹立するともう、もう♪　体面など忘れて、っは、あっ♪　唸り声とよだれを漏らす獣になってしまうのですから、アンジェは……うっ、ふふ♪

☆今にも剥がれそうな「朗らかなメイド」の仮面を必死で抑え込みながら、アンジェは疑うことを知らない「ご主人様」の口の前で腰を落とす。

(16:46)

……う、ふふ♪　お待たせいたしました、おぼっちゃま♪　く、ううん♪　いつ、いえ、わたくしのことはお気になさらず、お口を大きくお開けになって……あは、あ♪　よだれが糸を引くのが見えて、ううう♪　あっ、そうですわ♪　たいへん敏感、ではなくっ♪　硬あいお菓子ですので、歯をお立てにならないようお気を付けくださいね……はい、おぼっちゃまは、あんっ♪　とってもお利口さんですわね……その、お利口なおぼっちゃまのあたたかなお口まで、五センチ、三センチ……いつ、ひゃあああ♪

☆瞳に浮かぶ興奮の色とは反対に、アンジェは慈愛に満ちた甘い声を出し、ペニスを「ご主人様」の口にどんどん沈めていく。

(17:44)

はあい、もう目をお開けになって大丈夫ですわあ♪　ああ……ん、くう♪　ほら、しっかりとご覧になってくださいませ♪　アンジェのびきびきと青筋を立てた怒張、がぁ♪　は、あんっ♪　ぬるぬる、ぬるぬると、お、ほおお♪　おぼっちゃまの、お口に飲み込まれていく様子を……はっ、う、うう♪　あっ、あっ♪　見られてまた、どくんどくん♪　と太く膨れ上がってしまい、ますっ♪　はあ、は、恥ずかしい、ですっ♪

☆「ご主人様」が反射的に涙を浮かべるのもかまわず、アンジェはゆっくり腰を使い始める。それも彼女のうちでは理屈の通った行動であるらしく、妄言としか思えない言葉を確信とともにつらつらと語る。

(18:24)

つく、うあ♪ なんと素晴らしい、なのでしょうっ♪ にゆるると柔らかながらキツめに締めつけてくる肉穴も、ほお、う♪ につ、ひう、ああ♪ 耐えられずに逃げ出そうとする失格メイドを咎めるよう、に、いい♪ 敏感なところを擦る、お口……粘膜もお、うつ♪ あ、う、んん♪ わたくしの今まで味わった、に、肉っ♪ 肉棒快感の中でも、最上……♪

(18:58)

ふ、ふふ♪ んくうっ！ ……おぼっちゃまにも、おわかりになりますか、あはああ♪ ずきん、ずきん♪ と、わたくしの子種タンク……ぎっしりと中身を詰めこんで恥ずかしげもなく垂れ下がった、キンタマが、疼くのをお♪ 気持ちいいのももちろんですが、あんっ♪ ふふ、アンジェは嬉しいのです……ご主人様の要望に、ようやくお応えすることができ、てっ、へええ♪

(19:35)

だっ……てっ♪ そうですわよね、え♪ あんなに短くて小さくて、勃起しても柔らかい部分が残った、あく、う♪ うふっ♪ おちんちんを一生懸命お立てになってっ♪ ん、うう♪ 薄うい薄うい、精子なんかほとんど入っていないようなザーメンをほんの少量、ぴゅっ♪ っと弱々しく噴き出されるなんて……♪

☆そこまで言うとはアンジェは一度沈黙する。息を整え、自らの頬をかき撫でるようにしながら、陶然とした声で言い放つ。

(20:03)

ああ、ああ、そんなの……このアンジェに、ご自分をメスに作り変えてほしいとのご命令以外では、ありえないではございませんかあ……♪

☆見当違いな熱意と陶醉でもって、アンジェは「ご主人様」の口中を犯し続ける。彼女の心底嬉しそうな表情には今度こそ虚偽なく、性の悦楽と「ご主人様」への倒錯した恭順が入り混じっていた。

(20:19)

は、あっ♪ おぼっちゃまのほっぺたの内側あ……ほっぺたそのものにも、おっ♪ 劣らぬくらいに、やわらか、ああ♪ ふ、ふふっ♪ それにしてもおぼっちゃまは、んん、く、あ♪ 天才でいらっしゃる、ねえっ♪ こんなにも、的確……にい♪ そうっ、まるで、う、ううん♪ 陰嚢を直接握りこまれて、情け容赦なく、ふ、う♪ もみこねもみこねとされてで

もいるみたいに……わたくしのキンタマ性欲を刺激されて、つくっ、くうっ♪ しまうんですもの、っお、おおっ♪

☆アンジェは腰を振りながら「ご主人様」と自らのオスとしての資質を比較する。しかし見下すような調子がないのは、大好きな「ご主人様」に触れる行為がどのような形であっても彼女を途方もない悦楽に導くからだ。

(21:07)

ほら……うふっ、うふふっ♪ おぼっちゃまが勃起、っ♪ させてくださったオチンポですわ……ひ、あ、ああ♪ 舌で、頬で、唇で、存分につ、ひい♪ お味わい、くだ、さいい♪ うあ、あは♪ おぼっちゃまが何かなさるたびに、むくりむくりと腫れ上がってしまうのですよお……♪ わたくしに近づく足音で、むくっ♪ 顔を覆った柔らかいお指で、むく、むく……く、ふうっ♪ おぼっちゃまの一挙手一投足、がっ♪ あ、う、っく♪ チンポの芯に響いて、たま……りま、せんっ♪

☆恐ろしいことに、彼女の言葉にウソはない。心の底から「ご主人様」がそう望んでいると信じて、彼女はまたペニスをひととき隆起させる。

(21:51)

ひっ♪ いけませんわ、そんな、あっ、淫らな表情……♪ お、ほお……おおっ♪ 苦しうにおめめを細めて、え、涙まで浮かべていらっしゃるのにつ♪ 少し視線を、ふっ、んくっ……下げ、ればあ♪ 血管の浮いた肉竿、うあ、ひや、あああ♪ お口につ、い、いっばい詰めこんで、温かなよだれを竿じゅうにまとわりつかせて、ええ♪ むくむくむくっ♪ むくむくむくむくっ♪ こんっ、なにつ、おっきくなる、のお♪ はじめてっ……はっ、初めてですうっ♪

☆アンジェの理不尽としか言いようのない怒りが、獣欲と結びついて「ご主人様」を責め立てる。声こそさずって本気で怒っているわけではないと伝わるものの、その実彼女が行っているのはイラマチオにほかならない。

(22:32)

……あら？ おぼっちゃま、何かおっしゃりたそうにわたくしを見上げて……んっ、ぐうっ♪ あ、ああっ♪ イヤっ、イヤですわあ♪ そんな、「僕は男の子なのにむりやり極太チンポしゃぶらされて辛いよお」みたいな顔、おお～っ♪ おっ、ひいひい♪

(22:54)

も、もう！ おぼっちゃま！ 僭越ながらアンジェは、ただ生やしているだけのおぼっちゃまに比べれば、遥かにチンポ遊びの経験が豊富だと自負しておりますっ♪ ですがっ、ん、へええっ♪ ここまで、つくっ♪ お行儀の悪いメスには出会ったことがございせんっ



♪ こちらが優しく犯してさしあげようとしていることなど知りもせず、にいい♪ はあ、あ～っ♪ チンポの、お♪ いっ……ちばんおいしいところだけありつこうとして、身の程知らずな挑発を繰り返される、なんてっ♪

☆アンジェはまるで「ご主人様」がペニスを弄んでいるのだと言わんばかりの口ぶりで、上機嫌に腰を振りたくる。

(23:34)

よい、でしょうっ♪ そこまで女のキンタマをイラつかせるのが、あああ♪ お好きなのでしたら、ご存分に……ひ、いいっ♪ はち切れそうな肉棒の裏に表に舌を♪ 這わせてえ、うっ、ふふっ♪ 竿の根元のしっとりとした肌に口づけ、てっ♪ ご自分のなされた乱暴狼藉の対価をお受け取りになれば、ぐっ、ううう♪ よろしいでは……ありませんか、あっ、ああっ♪

☆アンジェは最後まで「ご主人様」の顔から目を離さない。快楽に顔が跳ね上がりそうになるのを力づくでこらえ、閉じようとするまぶたを押し上げながら、自らの絶頂を切実に「ご主人様」に訴える。

(24:13)

は、あいつ♪ お嬢様のご要望通りに、尿道口をぱくり♪ と、開け、てへええ♪ う、んっ♪ チンポ肉がぐうっと太くなっ、ってえ♪ あゝ、あっ♪ お嬢様のあったかお口マンコにきったないキンタマ汁を排泄してさしあげようと、おお、おゝんおお♪ イ、きますわあっ♪ ミルク出まひゅっ♪ うあゝ、あ、あああっ♪ チンポっ、チンポイぐ、イぐっ、っあ、くううあ♪ しやせえーっ♪ キンタマミルク大量、放出うう♪ びゅっ♪ って、びゅうってっ♪ びゅううう～～～、ってえ～～～♪

(射精)

☆精液が流れ出していく感覚でまた絶頂を重ね、つま先をがくがくと震わせるアンジェ。崩れきった表情を隠そうともせず、「ご主人様」の口に精液を吐き出す喜びにだけ集中する。

(24:58)

あゝっ♪ おっ、ほ、ほおお♪ 出っ♪ 出え、えひ、えひひい……♪ 出て、ましゅうう……♪ しゅごい勢いでチンポの穴からびゅびゅびゅびゅーっ♪ びゅうーっ♪ うゝ、んぐう♪ オス失格の「おぼっちゃま」のお口につ♪ う、うああっ、メス満点大合格の、「お嬢様」のお口マンコに、いいい♪ 尿道擦れてきも、ひいっ、よくなるくらいのお、うお♪ 白、濁、だく射精、ひい、いいっ♪

☆射精が止まると、アンジェは膝立ちの「ご主人様」の前にひざまずき、顔の高さを合わせる。紅潮した頬を笑みにゆがめたかと思うと突如口づけをし、「ご主人様」の口腔から自らの快楽の残滓を吸い上げる。

(25:40)

はっ、はあ……お、おぼっちゃま、お口はお開けになったままでお願いしますわね……チンポ、扱い、てえ……へえっ♪ 床に、よい、しょ……膝立ちになりまして♪ あら、あら、お口の中を汚いねばねばでいっぱいになさって♪ んふふ、アンジェにもお分けてくださいまし……んちゅ、ぬちゅ♪ ぷちゅる、えれ、れるる♪ っちゅっ♪ ちゅううう♪ あるる、えるるる♪ くっちゃ、くちゅ、ちゅう……うっ、ああ♪

☆アンジェはわざとらしく音を立てながら精液を飲みこみ、その淫臭を吹きかけて「ご主人様」をますます朦朧とさせてしまう。それをいいことに、嘲笑うように「ご主人様」の劣等感を煽る。

(26:48)

ぐちゅる、ぬちゅ、ぐちゃ……ごく、んくっ♪ ……ん、ふうーっ♪ ふふ、こうして息を吹きかけてさしあげると漂う、おぼっちゃまの種汁ティッシュなどとは比べ物にならないオスクっさいにおい……♪ アンジェのお精子ミルク、こんなにも恥ずかしい香りで……のどごしだって最悪で、ん、ぐちゅっ♪ べちゃべちゃと喉に引っかかってなかなか飲み込めませんわ♪ ですが、はあ……こうしたものが本物のザーメンなのですから、おぼっちゃまはやはりオスではいらっしやらないのかもしれないかもしれませんね♪

☆ひとしきり言い終えると、アンジェは「優しい世話焼きメイド」そのものの笑みを浮かべ、「ご主人様」を柔らかく抱きとめるのだった。

(27:55)

……だなんて、ふふ♪ 今日のところはそんな難しい話は置いておきましょう♪ しばらくぶりに、アンジェの胸にうずもれてゆっくりお眠りになるというのはいかがですか？ ……あら、いきなり飛び込むなんて甘えん坊さん、んっ♪ あっ、これは……違うのですよ？ いくら肉欲まみれのチンポといえども、主人の眠りを妨げない程度の節制は心得ておりますし……眠りを妨げなければ何をしてもいいなど、考えておりませんから♪ さあ、お眠りになる前に「歯磨き」です♪ んっ……ちゅうう♪

## 第2話 おさほう

☆「ご主人様」の勉強をみるアンジェ。申し分のない成果を自分のことのように喜び、頬ずりさえしてみせる。

(00:00)

マル、マル、マル、最後もちろん……マルっ！ 全問正解です、おぼっちゃま♪ こんなにかわいらしいのになおかつ聡明でいらっしゃるなんて、アンジェはもう……ああ、もう♪ 昂りのままに頬を擦りつける無礼をお許しくださいますか♪ すーり、すり……すりすりっ♪

☆頬をくっつけたままのアンジェの瞳に暗い光が宿り始める。依然として忠実なメイドであることに変わりはないが、「ご主人様」のあちこちに指を這わせて窮屈そうに腰をよじる仕草や、息の多い声に高まる劣情を感じさせる。

(00:36)

次は、こちら……唇や、お顔……それから、まだ成長途中のすらりとしたお身体を使って、「メス」のお勉強♪ いたしましょうね♪ はい、腕をだらんと垂らして、力をお抜きください……脱力なされると、指でつつう、と腕を撫で上げられるだけで、つま先がぴく、ぴく♪ わたくしの呼吸がやけに大きく聞こえて、すう、はあ……おめめが潤んでしまいますね♪ すう、はあ……

☆絡みつくような口調と身振りで「ご主人様」自らにオスを否定させると、アンジェは一度身震いする。

(01:37)

ふう……ほら、ゆっくりと息をしている間に、人差し指がおぼっちゃまの下唇まで来てしまいましたわ♪ あら？ おぼっちゃまは「お嬢様」なのでしたっけ……女の子でいらっしゃるなら、例えばお口の前でくね、くねと揺れる指などご覧になると……あ、んっ♪ うふふ、ちゅうちゅう、ちゅうちゅう……♪ そうですか。メスでいらっしゃるのですね、「お嬢様」は、あっ♪ ほっぺたと頭の中をピンク色に染めて、メイドの指を口に含む、すっかりのぼせた女の子お♪ 本当は何をおしゃぶりになっているつもりなのかしら♪

☆アンジェは当然のように、「ご主人様」に服を脱ぐよう要求する。力が入らずに服を脱ぐのに時間のかかる「ご主人様」をあえて手伝わず、悩ましげにゆっくりとスカートの裾をつまみでは離す。

(02:55)

ふ、うう……あら、お嬢様？ お嬢様はどうして、男の子の服をお召しになっているのですか……すうすうして、落ち着かないでしょう？ ……脱いでしまっは、いかがです♪  
見ていてさしあげますから、椅子からお立ちになって♪ シャツのボタンを一つ一つ外しながら、ズボンのファスナーを下ろしながら……おぼっちゃまという存在を自らお脱ぎ捨てになりませ♪

☆アンジェは裸身をさらした「ご主人様」を視線で舐めるように眺め、自らの肩を抱いて身震いと劣情を抑えている。しかし「教育」の最中であるという強い意識で、普段の彼女にはあまり見られない冷静な物言いを徹底する。

(03:45)

はああ……するすると布が落ちるたびに、お嬢様の穢れなき柔肌が少しずつ露わになっていく様子……アンジェ、一人で「すっきり」したくなってしまうます♪ はあ、あっ……オスの性欲をなぞり上げるストリップまでお得意だなんて、く、うっ♪

☆アンジェの視線は隠すものを失ったペニスと「ご主人様」の顔を行き来する。声に戯れの色をにじませながら、存在するのが当然であるはずのペニスを見咎める。

(04:15)

……ん、んっ♪ お嬢様、「それ」はいったい何でしょうか？ つるんとしたお腹の一番下で、頼りなげにふるふると震えて……あらあら、だんだんと持ち上がってきてしまいましたね。まさか、おちんちん♪ などではありませんよねえ……こんなにも愛らしくて無垢なお嬢様のお股に、汚らわしい獣欲のままにいきり立つオスの生殖器官など生えているはずが……くすっ、そのように申し訳なさそうな表情をなさるなんて、もしかすると本当に間違ってくつついたまま生まれていらしたのかしら……♪

☆アンジェはいかにもメイド然とした包容力ある態度を装い、「ご主人様」の勃起してしまったペニスに対処する。

(05:07)

せっかくですから、それ、隠してしまいたくまいしょうか♪ 皮かむりお嬢様おちんちんがお勃起なさったままでは、メスのふりをしてたくましいチンポに遊んでもらう、なんてことはおできになりませんものね♪ ふふ、わたくしの指示をお聞きいただければ大丈夫ですわ♪

(05:31)

まずは、お膝をばかり♪ とお開きになってくださいませ♪ そして、ぴいーん♪ っと頭を持ち上げてしまったおちんちんの幹に両手を添えて、ぐぐっ♪ っとお股の間に押し込んでしまいたくまいしょうね♪ あらあら♪ 若々しいお勃起、角度がとってもきつくていらっしやるから、上半身ごとお曲げになって……ふふ、おちんちんといっしょにお嬢様もお辞儀なさっ

て、おかわいらしいこと♪ そうしている間に、ゆっくりと膝が閉じてきて、ああ……太ももがふるふると震えながら、お嬢様オチンポを……ぎゅ♪

☆アンジェは舌なめずりしながら「ご主人様」の姿を眺め、「ご主人様」のもとに歩み寄る。口に出して調教の成果を「ご主人様」と共有すると、いよいよ自らのスカートに手をかける。

(06:28)

はあい♪ おちんちんお上手に畳めていらっしゃるか、アンジェがお側で確かめさせていただきますわね♪ まあ……股間にはオスのおちんちんなんて影も形もなく、つるりとしていて♪ 震える膝をもじもじと擦り合わせて、自信なさげに内股でお立ちになって……んっ、ううう♪ お嬢様はどこからどう見ても、メス♪ 自分にはないオチンポが羨ましくて欲しくてたまらない、エッチでかわいい箱入り娘……♪ それが、お嬢様なのですよ♪

(07:21)

う、んっ♪ ではでは、お嬢様がメスになられたところで♪ スカートをたくし上げまして……んんっ♪ あ、はあ♪ もわり♪ とわたくしの体温と香りに染まった濃い空気が漂ってまいりますわ♪ ほら、お顔を下にお向けになると……生温かくて、甘ったるいアンジェ臭の源♪ 主人の裸でお勃起申し上げる、不敬なふたなりチンポお……♪ あらあら、まんまるおめめが、チンポなんかに、く・ぎ・づ・け……♪ ふふ、そんなにお好きなのでしたら、もっとお近くでご覧になってはいかがですか……♪

☆アンジェは言葉に「大好き」や「悲しい」といった感情を過剰に表す芝居がかった様子で、「ご主人様」の頭上から声を降らせる。

(08:18)

そうです、せっかくいらないないしたおちんちんがはみ出てしまわないように、ゆっくりと腰をお下ろしになってくださいませ……さあ、お嬢様♪ 「お作法」の時間ですわ♪ オチンポ大好きなお嬢様が、オチンポに大好きでいてもらえるように♪ お嬢様がオチンポに好き勝手に犯されて、ぼろ雑巾のように捨てられるなんて悲しいことのないように……鼻先ににゅっと差し出された、湯気の立った勃起オチンポで♪ しっかりお勉強、しましょうね♪ うふふ、素直にうなずかれて♪ アンジェも、たいへん教えがいがございます♪

☆アンジェは適当な物言いで「ご主人様」を言いくるめ、ペニスを顔に置くという従者としてはあるまじき行動に出る。その背徳感が喉奥でくすぶり、熱い吐息を漏らしてしまう。

(09:14)

とは言っても、そんなに難しいことではございません♪ 最初は、顎を少しだけお上げになって、お顔を突き出す。それだけでよいのです……♪ ん、う、ふふっ♪ そうすると、こ

う♪ う、はあっ♪ べちゃりと湿った音を立てて、お嬢様の鼻面に硬い肉竿が着地してしまいました♪ よかったですね♪ 軽く顎から額まで届く雄々しいオチンポ様に、チンポ置きとして認識して、いただけ……ん、う♪ ました、よお♪

☆背筋を駆け上がるぞくぞくする感覚に崩れ落ちそうになりながら、アンジェは「ご主人様」の顔にペニスをぐいぐいと押し付ける。

(10:01)

あゝ、おお～っ♪ ひっ、ひああ♪ 鼻先、ぺしゃんこに潰れてしまうほど、おお♪ ぴったりと先っぽにっ……どくどく重苦しく疼くっ、赤黒い亀頭に押し当てられて、へええ♪ ん、うっ♪ ふ、っふふ、ぴゅっ♪ と溢れたカウパー汁をお顔でお拭きいただけるのですか……あ、んあっ♪ お鼻の下をだらしなあく伸ばしたメス顔をオンナチンポなぞに押し、つけてえ♪ 先汁ふきふきしながら、「こんにちは♪」、のごあいさつ、うう♪

☆アンジェは自らの恥部の濃厚な淫臭を「ご主人様」に嗅ぎ取らせ、あわよくば肺の深くまで吸い込ませようとする。声は上ずれど、「ご主人様」に指示する言葉は宗教儀礼のように不気味な自信に満ちている。

(10:46)

ふう、んっ♪ それだけでは、あ、ございません……わよねっ♪ お嬢様は、あはっ♪ お鼻で、触れていらっしゃるのですから……おわかりですよ、ふふっ♪

(11:04)

さあ、深呼吸をどうぞ♪ 息をおお～きく、すう～っ……♪ ぴたっ♪ 息を止めると、お鼻の中で新鮮なチンポ臭がぐるぐる、ぐるぐるう……♪ ん、んっ♪ はい、お口からゆっくりお吐きになっ、てえ♪ お嬢様のだあい好き、な、ああ♪ は、あっ、オスクさい空気が逃げないように、ゆうっくり、ふう……♪

(11:48)

ひどい、においですわよね……あ、ううんっ♪ むわむわと甘ったるくて、腐った果実のように蒸れてツンとくる、オスのいちばん濃い香りい♪ うっ、んあっ♪ お嬢様の高貴おちんちんから漂うミルクに似た芳香と同じものとは思えない、はっきり言って、悪臭、ですっ♪

☆アンジェは荒い息を交えながら、赤裸々に自分の淫行を物語ってみせる。それでもペニスから顔を離そうとしない「ご主人様」の姿を見透かし、甘やかすように次々と墮落を誘う。

(12:15)

しかも、アンジェったら、昨晚お猿さんのように手淫に励んで、そのまま湯浴みもせずに寝てしまいましたから、んっ、つくう♪ .....あら、あらっ♪ それを知ってますます激しく息を吸い込まれるなんて.....やはり、ご自分のことを思い浮かべながら吐き出された精子のにおいは格別.....ですか♪ ん、ふうっ♪ 申し上げて、おりませんでしたか？ アンジェは、あ、うう♪ 毎晩、毎晩っ♪ お嬢様のことを考えてはチンポを立てて、しごいて、発射あ♪ して、おりますよ、お、っほ♪ は、あい♪ すう〜っ、ふう.....♪

(13:06)

ふ、ふふっ、そんなお顔.....とてもアンジェ以外には、んあ♪ 見せられませんね♪ お鼻はお元気にひくひくしていращやるのに、うたた寝なさるみたい、にい♪ まぶたをとろりと落とされて、お口、をっ、尖らせて.....♪ ええ、お嬢様のお考えですもの、アンジェはなんでも把握しておりますわ♪ お嬢様の赤い赤い唇で.....真っ赤なオチンポの切っ先に、キスの雨をお降らせになっっては、あ、あっ♪ いかがでしょう.....んっ、うう♪

☆おずおずと、しかし貪欲に這いずる唇が敏感な亀頭に触れる。焦らされていたペニスが予想以上の感度になっており、アンジェは思わず嬌声を漏らす。

(13:53)

ふ、うう.....んっ♪ あん、んう、ふあっ♪ んっ、ふふ♪ 淑女とは思えない、貪欲な接吻ですわね、えっ♪ んっは、あ♪ あっ、あんっ♪ じゅるじゅるとよだれをまとわせた肉々しい唇、うう♪ ちゅうちゅう、ちゅうちゅう♪ むき出しの粘膜に、あはあ♪ 吸い.....ついてえ♪ アン、ジェっ♪ お嬢様に亀頭をついばまれ、てへえ、おりますわっ♪

☆アンジェは睨むほどに視線を「ご主人様」の顔に注ぐ。「教育」のていで発せられる言葉に似つかわしくない懇願の色が、強くアンジェの声ににじむ。

(14:29)

はっ、はあ、早く、はやくその濡れたお唇を割り開いて、ええ♪ アンジェめの、不躰にも、おお、きく、パンパンにつ♪ 膨らんだ亀頭をどうか.....あ、しとどに濡れたお口にお迎え入れになって、んお、ほっ♪ あっ、あっあっ♪ お口が開いて、にちゃあ♪ と音をお立てになりましたね♪ あんな中にわたくしの亀頭、んぐっ♪ にちゃあ♪ にちゃあ♪ はっ、はへ♪ にちゃあ〜、ってへえっ♪

☆いよいよペニスの先端が「ご主人様」の口中に沈むと、バネのようにアンジェの顎が跳ね上がる。断続的な短い呼吸と押し殺したような潰れた喘ぎが、アンジェの喉を通して出る。

(15:05)

あゝお♪ あっおゝお♪ おゝ、う.....へ、ええ♪ つひっ♪ ひゅ、うう.....ふう、ふうう♪ うんゝっ、おお〜.....♪

☆数瞬を経て、引きつったアンジェの全身からどっと力が抜ける。一度額を拭くと、一瞬見せた獣性が完全に隠れ、弛緩してはいるが冷静な声で、「ご主人様」を見下ろして再び「教育」にかかる。

(15:19)

……ふう♪ ふふっ、申し訳ございません。高貴なお嬢様の従者ともあろう者が、獣じみたオス鳴き声を上げて、んんっ、うう♪ はしたなく乱れる姿をお見せしてしまいました  
……は、ああ♪ あら、その「高貴なお嬢様」はと言うと、お♪ 念願かなって巨根オチンポをもごもご頬張り、いい、ひっ♪ にゆうっ♪ っと唇を伸ばして、少しでもたくさんチンポ味を感じられるように懸命で、んんっ♪ わたくしめも、精一杯マラを太く屹立させてお手伝いさせていただき、つくう、ますねっ♪

☆アンジェの物言いは「ご主人様」を軽んじているようで、声にふざけた様子はない。滔々と語られる言葉は全てが事実であるように「ご主人様」の脳にしみこみ、腐らせていく。

(16:05)

おお、つつ♪ あっ♪ じゅぽじゅぽフェラチオ♪ なさる上で、舌の……這わせ方っ、唇での、しごき方、あ、あっ♪ などよりも大事なものは、くすっ♪ ご自分のかわいらしいものが、今、おしゃぶりになっているものより……大きさと、色で、硬さで、においで、味で……っえ、へえっ♪ ふ、ふっ♪ カリ首の尖り具合でも、キンタマの性能でも、なんでもかまいませんけれど♪ そのどれもが比較対象にするのもおこがましいくらいに劣って、んっ♪ いることを正しく認識なさって、ちゃあんとオスを諦めること、ですわ♪

☆アンジェは極力嬌声を抑えながら、息の多い声で意味を持たない単純な擬音を繰り返し、「ご主人様」の思考をペニスだけに集中させる。

(16:55)

……お嬢様は上手に、極太チンポに「屈服」おできになりますか？ チンポ色に染まった不快な空気を呼吸しながら、先汁のしょっぱさに舌を痺れさせ、て、へえ♪ お口はじゅっぽじゅっぽと生々しい音を、ううんっ♪ 立て、てっ♪ 赤黒く膨張した肉塊を見れば、目がうっとり、っひい♪ してしまっ……すうはあ、びりびり、じゅぽじゅぽ、とろおん、んっ♪ アンジェのオチンポお、すうはあ、びりびり、じゅぽじゅぽ、とろおん……♪

☆「ご主人様」のフェラチオは次第に契約のような重みを持ち、アンジェの背筋をぞくぞくと震わせる。

(17:36)



ふふ、きちんとメスの自覚を持って、んあ、んん♪ おしゃぶりになる、オチンポは、っくあ♪ っあっ♪ とおっても……おいしい、ですわよ、おっ♪ んああっ♪ メス、ですかっ♪ お嬢様、はっ♪ オチンポちゅぱちゅぱ♪ となさるのが大好きな、メスでいらっしやる、の、ほおっ♪ ですよね♪ 「屈服」、う、なさいますねっ♪ でしたらもっとっ、もっとお♪ アンジェのオスの部分、めちゃくちゃになさるおっ、もりっ、でええ♪

☆「ご主人様」の虚ろな瞳を確かめると、アンジェは鬱屈したところのない嬌声を高らかに上げながら、密度の増した口淫奉仕を存分に楽しむ。

(18:11)

あ、はああ〜っ♪ 屈服完了フェラチオ、激しすぎっ、ますわあっ♪ ぐぼぐぼと頭を前後させて、根元、から先端っ♪ あう、ふうう♪ まで舐めしゃぶっていらっしやるのに、うん、んっ♪ 溢れ出るカウパーは、決してっ、ふうっ♪ お見逃しにならなくて、ザラザラとした、舌、でええ♪ うっ、うう♪ 拭い取られてしまいます、んあ、はっ、ああ♪ ひいつ♪ わたくしのっ、性欲ぬるぎと肉マラっ、おっ、おお♪ っへ、え♪ ちゆるぴかオチンポになりまっ、ふうう♪

☆軽い気持ちで「屈服」を口にしていたアンジェだったが、本当にペニスに魂でも捧げそうな「ご主人様」の激しいフェラチオに面食らい、抑えのきかない嬌声を上げる。

(18:54)

うう、お嬢様は……いじめっこですわっ♪ こんなにもお嬢様を楽しませてさしあげている極太オチンポ様、あっあっ、ああっ♪ ペろペろれろれろじゆるじゆるちゆるちゆる♪ ってなさって、腰っ、痙攣〜っ♪ んなああ♪ 「屈服」なんて調子に乗ってだらしく膨らんだチンポっ♪ 狭くって逃げられないお口マンコにねぶられて、いたぶられて、あっ、ひやあああ♪ 頭をぴよんぴよん跳ねさせても濡れた上あごにぶつかってもっとっ♪ もっと、ちゅらくなるばかり、れひゅうう♪

☆しかしそれもアンジェにかかれば、さらなる悦楽の布石でしかない。実際に淫感を得ているのをいいことにアンジェは、いかにも快感に流されて口をついて出たという体で、もう一つの性感帯に「ご主人様」を誘導する。

(19:34)

あっ、ああ♪ もおオチンポらめれしゅっ♪ 亀頭ペロペロも裏筋くりくりも、おおお♪ お控えくらしやい、まひえええ♪ ひい、チンポだめでっ、この上え……陰囊っ♪ 重たあくどぼん、どぼん♪ と汚らしく揺れるキンタマ袋っ、おお♪ までっ、お嬢様のお暇なおてでぐいぐいと揉みこまれたりなんて、されてしまったら……あ、ああ♪ アンジェはもう、おかしくなりましゅ、うう、うう〜っ♪

☆アンジェはまんまと「ご主人様」が陰囊を手中に収めたのを確認する。すると、アンジェの薄い唇にほんのわずかな笑みが浮かび、罨にかかった「ご主人様」をごく冷たい調子で嘲笑する。

(20:13)

おっ♪ おっ♪ おおっ♪ 小さくて柔らかいお指が、肉タマ袋の分厚い皮を揉みこんで……え♪ 煮こごったザーメン、ほぐ、ほぐしゃれて野太いオス喘ぎ漏れっ、おお♪ うう、うんっ……どなたですかあ、こんなことをなさるのは～……あら、あらあらっ♪ なるほど、お嬢様は本当はオチンポ様に奉仕することなんかどうでもよくて、ご自分のメス欲を手前勝手に満たしたくていらっしゃるだけのビッチさんなのですね……んっ、ふふ♪

(20:55)

アンジェはきちんと申しましたわよね～♪ キンタマ揉んだらおかしくなる、と♪ わたくし、もう、「おかしく」……自らのチンポを気持ちよくすることしか考えない、オ・ス♪ に、なってしまいますからねえ♪ せっかくデブタマ袋までがっちり掴んでいただいたのですから……そうですね、こうして、御髪ごと頭を両方から押さえてしまえば、安心して腰を振ることができますわ♪ では、さーん、にーい、いーち……♪

☆アンジェは無抵抗になってしまった「ご主人様」に勝ち誇るように、普段の彼女にはありえない野卑さでいななき、固定した「ご主人様」の頭に打ちつけるほどの勢いで腰を振る。

(21:35)

おっっ♪ ほお、らっ♪ ああ、んっ♪ うっ……はあ♪ やっぱいい、たまりませ、んっ♪ チンポに好き勝手しようとなさった不埒なメスをお、んひっ♪ んっ、バッキバキの怒張でこらしめるのきもち一きもち一ですわあ♪ おっほ、おお♪ おふ、ふふっ♪ すっかり力が抜けて、わたくしのチンポにくっついていらっしゃるだけ♪ あら、あらあっ♪ このアンジェとしたことが……んっ、んう♪ どうやら淑女ではなく、マゾメスになる教育を施してしまったようですわ、ねえっ♪

☆アンジェは腰の振りに合わせるように一言一言を強調しながら、平然ととんでもない暴論を口にする。彼女の忠節の裏返しとも言える鬱屈した支配欲のようなものを、熱に浮かされて吐き出す。

(22:14)

んっふふ、お返事もないのですから……っ、んはああ♪ お嬢様はそれ以下♪ かもしれませんねっ♪ 下賤の者が下卑た獣欲を、下品な呻き声と下水のようなチンポ汁として吐き出すためだけの……オスマラの気持ちいい部分を気持ちいいひだひだやいぼいぼで刺激するだけの♪ 性処理玩具、うう、はああっ♪

☆狂乱し、理性によって取り繕うことができないゆえか、かえって愚直な好意がアンジェの口をついて出る。支配欲も嘲笑も真実でありながら、その底には誰よりも強い「ご主人様」への愛情がはじけそうに見え隠れする。

(22:39)

お嬢様は、おもちゃ……ああ♪ アンジェのメスチンポを楽しませてくださるための、かわいらしいお顔とっ♪ ぬるぬる潤んだ穴のくつついた、っなっ、ああ♪ オチンポ自動ぱっくん機能完備の……最高級オナホールうう♪

(22:59)

ん、ああ、あはっ♪ そんなこと考えては、ああ、アンジェの肉桃色のおキンタマっ♪ 大興奮～っ♪ お嬢様のおててにふんわりと包まれ、ながら、んっ、うぐ、うう♪ ごぼごぼと……ぐつぐつとザーメン煮詰め、てっ♪ え、へっ、ええ♪ 際限もなく重たくっ、苦しくなっていってしまいましゅ、ううん♪ うふ、うっふふ……これが全部、お嬢様のお口オナホにい、ひいい♪ あゝおお♪ また鞆丸♪ ぎゅうう♪ と引き上がった、あああ♪

☆アンジェは「ご主人様」に向けた目を苦しげに細め、切なさの滲んだ声で途切れることなく喘ぎ続ける。絶頂が近づき、言葉はただただ子供じみた独占欲を表すものになってしまう。

(23:36)

一応、「教育」です、からあ♪ あっ、はあ♪ 大事なことを教えてさしあげっ、ますねえ♪ んっ、ふふ♪ オチンポは、あん、うあっ♪ 快楽以外のことに、興味などありませ～んっ♪ そんなところに、ふ、うう、んんっ♪ 「屈服」だなんて目にハート浮かべたメスがっ、いたらあ……ほら、ほら、ほらっ♪ う、はあ、あああっ♪ こうやって容赦ない腰振りで、お口をオマンコに変えられ、てっ、しまうんでひゅよお♪

(24:06)

あ、ううう♪ メイドチンポがびきびきいたしまひゅ、うっ、んゝんっ♪ 強制……フェラチオお、でっ♪ ご理解くらひゃい、ま、っへえ♪ メスはっ♪ チンポの言うこと聞く、んれしゅっ♪ チンポがびゅーしたいって言ったら、うあゝ、ああ……♪ きちんとイかせてあげるのが、役割っ、なんれひゅ、うう♪

☆それだけ言うと、もう限界だったのだろうアンジェは細かく途切れた喘ぎとともに性感を表すばかりになる。息を切らせ、潤んだ視界に映る「ご主人様」を求めて、必死で腰を打ちつける。

(24:31)

ほら、ほらあっ♪ 頭押さえつけられ、てっ♪ ピストンで脳みそ直接がくん、がくんっ♪  
うあ、んほ、おお♪ 頭の力が抜けてっ、せっかくお教えしたことも、アンジェのオチンポ以外、全部抜けていきまひゅ、ねえっ♪ わたくしも腰っ、がくがく、しゅるうっ♪  
はっ、あああ♪ 脚に力あ、入らにやい、のにつ♪ 頭もぜんぜん、考えられにやいのにい♪  
腰だけ勝手に、っへええ♪ 動い、て、しまいまひゅう♪

(25:08)

う、あ、ああ〜っ♪ お嬢様と一緒に、いっしょに、おかしくなっっ♪ ほおっ♪ 尿道おばかしちゃんになって、キンタマ汁、うう、むりゅむりゅ登ってくう、りゅっ♪ おひりの、奥うう♪ 自分ではどうにもならないところに力、入っ、てへえ♪ 塊みたいにとろ……どろで、あっつい、せーえきい♪ ぎゅんぎゅんぎゅんぎゅんぎゅんぎゅん、っひっ♪ 押し出しゃれてっ、りやめ、れふっ、んんっ♪

☆お互いに寄りかかりあう主人とメイドの、淫らではあるが美しい姿が鏡に映る。アンジェは相変わらず肉感に舌を震わせながらも、「ご主人様」を労り、思っ、胸を詰まらせる。

(25:46)

お、おお♪ もお、も、止められましえ、んっ♪ おじょう、さまあ♪ うう、んっやあっ♪  
アンジェはっ、もう腰、いい♪ んはっ、うう♪ 動かしませんからっ♪ ぴたりとお股くっつけたまま、でもお……お汁う、出ますっ、からああ♪ あっ、あああ♪ どろっどろのキンタマミルク、ゆっくり登ってっ♪ こんなにも背筋っ、震えてええ……♪

☆アンジェは一つ覚えに射精の一言を繰り返し、そのたびに「ご主人様」を一つ一つ噛みしめるように思い返して腰を震わせる。

(26:09)

う、うう、射精っ♪ メイドなのに、お嬢様をおもちゃ扱いしてチンポしゃせえっ♪ お口の中あったか、くてえ、柔らかくてチンポ、射精っ♪ びくびく、してるう♪ 喉の入り口で、ぬるっ♪ って先っぽねぶられて射精っ♪ 舌のざらざらで、キンタマ袋に巻きついた指で、引きつった喘ぎ声で、とろけたお顔で射精い♪ ひいっ♪ 愛しい、愛しい、お嬢様にい、といい、いい……アンジェのチンポお、しゃぶっていただきながら、しゃ、ああ、しゃっ、しゃせ、射精い~~~~っ♪

(射精)

☆普段自慰をする際に見せる豪放な絶頂は影をひそめ、「ご主人様」にだけ聞こえればいいというようにか細い喘ぎを漏らすアンジェ。

(26:51)

うう……つくっ♪ はっ、あう、ん……っ♪ ふう、ふっ、あ、ああ♪ どく、どく♪ 尿道穴が脈打ってっ……チンポミルク、いっぱい注ぎます、わっ♪ ……んんっ♪ 食道、喉っ、それから、お口い……それから空っぽになってしまわれたお頭も全部、真っ白なアンジェ汁で満たしましょうねえ、っあっ♪ びくんっ♪ っとお肉が痺れて、またっ♪ 搾られ、んっ、は、あああ……♪

(27:43)

……んう、ぬ、抜きます、ね……♪ 肩から上の力をお抜きになって、ゆっくり息を吐き出してくださいませ……う、ん、ふっ♪ ああ♪

☆アンジェは肩を一度震わせ、軽く息を吹き出す。かと思うとすでに、元の世話好きなメイドの調子に戻り、床に手をついて座っている「ご主人様」の前にしゃがみこむ。

(27:59)

ふう……さあて、さて♪ よい、しょ。ザーメンはほとんど喉奥にお注ぎいたしました、お口の中にも引っかかっているものがございませうでしょうか？ 先日してさしあげたみたいに、舌先でそれらをお集めくださいませ♪ そうしたら、こんもり溜まった種汁をしっかりと嚙んで、ぐちゃ、ぐちゃ、ぐちゃ、ぐちゃ♪ オチンポのことしか考えられなくなる汚あいキンタマミルク、唾液と混ぜてもう一度、ぐちゃ、ぐちゃ、ぐちゃ……ごっ、くん♪ はい、きちんとオチンポ汁、お片付けおできになりました♪ はだかんぼのお腹に直接、はなまる～♪

(29:04)

さあ、ちょうどはだかんぼなことですし、お風呂に向かいましょうか♪ 太ももの裏など、それはそれはべとべとになっていらっしゃるのではないですか？ ……あらあら、ほっぺたが真っ赤でいらっしゃいますわ。アンジェったらまた余計なことを申しましたかしら？  
そういえば、先程までもずいぶんと、甘美なうわごとを口にしてしまった気がします、本気になさらぬよう……オチンポは肉の快楽を得るためなら、嘘をつくことなどいとわぬものですから、ねっ♪

### 第3話 おしおき

☆「ご主人様」を起こしに部屋を訪れたアンジェは、ベッドの側に身をかがめて耳元に口を近づけ、タオルケットの端に手をかける。朝らしからぬ艶っぽい囁きが、熱された吐息とともに「ご主人様」の耳を襲う。

(00:00)

お嬢様.....お嬢様あ♪ おはようございます。今日も気持ちのよい朝がやってまいりましたわ。小鳥はさえずり、花は夜露に濡れ輝き、変わらず命のあることを感謝したくなるような朝.....ああ、お身体は起こそうとなさらずともかまいません。アンジェ、不寐にも少々疑問がございまして.....おふとんを下げさせていただきますわね、よい、しょ♪

☆アンジェは「ご主人様」の横顔に冷笑的な視線を注ぎながら、その下腹の膨らみを撫でさすり、感覚に悶える「ご主人様」を迂遠な言葉でなじる。

(00:58)

ふふ、露わになりました.....お嬢様、この膨らみはなんでしょうか♪ わたくしがお部屋にお邪魔したときにはすでに、元気に布地を押し上げていらっしゃって.....ほら、こうして手を伸ばして、なでなで♪ なあで、なで♪ うふふ.....さわさわ、すりすり、ぎゅ♪ あら？ 小鳥のさえずりかしら、か細い声が聞こえます.....しこしこ、しゅっ、しゅっ♪

(01:56)

お嬢様、どうしてお顔を赤くしていらっしゃるのですか？ ここに入っているものは、おパンツやおズボンの上から軽く擦ったり.....掴んだり♪ してさしあげただけで、お嬢様にそのようないやらしい表情を浮かべさせてしまうようなものなのではないでしょうか.....♪ あら、また少し膨らみが大きく.....

☆愛撫でとろけ始めた「ご主人様」と対照的に、アンジェの声は底冷えのする無機質なものと変わっていく。手は止まらないのに咎められ、「ご主人様」の身体がすくむ。

(02:32)

例えば、ペニスなどでしたら、このように膨らむことも考えられますが.....由緒正しき淑女であらせられるお嬢様には縁のないお話ですわよね♪ ええ、きとお服を剥いでしまえば、オスの性器など影も形もなく、ぷにっとしたもち肌にすっと一筋、細い割れ目の入った少女股間が露わになることでしょう♪

☆アンジェは「ご主人様」をじわじわと追い詰め、言うなりに動かしてしまう。

(03:14)

さあ、手を離します.....お服脱ぎ脱ぎ、一人でおできになりますわね♪ おズボンとおパンツの腰のところをまとめてお指で挟み、足と肩口で身体を支えながら、お尻をぐっと浮かせて.....あらあら、腰をお突き出しになると、もっこりがますますあらわになってしましますわね。ふふ、ずり下げるときに引っかからないようにお氣をつけて.....♪

(03:55)

よいしょ。よいしょ.....あとはもう、曲がった肘をお伸ばしになれば、大事なところがむき出し♪ 女の子オマンコ、露出完了ですわ.....それでは、ずるずるずる〜♪

☆当然のように現れたペニスはすでに勃起している。アンジェはそれに一瞥をくれるとすぐに向き直り、耳に触れそうな距離から感情のこもらない静かな声で執拗に咎める。

(04:18)

まあ♪ まあ、まあ、まあ.....♪ 出てきてしまいましたね♪ 天井をぴいんと向いてそそり立つ、お・ち・ん・ち・ん♪ 布地で押さえられていたものだから、おパンツ下ろしたら反動でぶるんっ♪ 自由になれて嬉しい嬉しい〜♪ と、頭をふるふる振っていらっしゃる朝立ちショタチンポ♪ 先端を覆う包皮もぷりんとつややか、とってもお元気で喜ばしいですわ♪

(05:01)

ですけれども、アンジェは今、悲しくてしかたないのです.....どうしてお嬢様は、わたくしが手ずから淑女教育さしあげているのに、こうやってすぐおちんちんおつきさせてしまわれるのですか？ アンジェは難しいことを申しておりますか？ なにもオチンポを、引っ張って、引っ張ってえ.....引っこ抜いてなくしてしまおう、などとはしておりませんよね？

ただお嬢様はメスなのですから、オスの性器なんて気にも留めず、オチンポの使い方を忘れてしましましょう、というだけですのに.....

☆アンジェはあくまでも「ご主人様」を思っという調子は崩さず、かといって欲情を隠すこともなく「おしおき」を申し出る。

(05:51)

ご自分のオチンポにすら言うことをお聞かせになれないお嬢様はあ.....♪ お・し・お・き、です♪ ずいぶんと久しぶりですわね、わたくしの膝にお嬢様をお乗せして、まんまるなお尻をぺんぺんと叩いてさしあげて.....甘やかな痛みと羞恥に歪むお嬢様の表情といったら、先汁、いえ、涙が止まらぬほどに痛切で.....んんっ♪ ふふ、言うことを聞かせられないのはわたくしも同じ、ですか♪

☆アンジェは少し身体を起こすと、「ご主人様」をうつ伏せにさせる。余計な注文をつけ、羞恥を与えることも忘れない。

(06:43)

とは言ってもお嬢様もずいぶん大きくなりましたから、膝の上というのも難しいですし、ふむ。そうですね、ベッドの上で身体を翻して、ごろんとうつ伏せになられてくださいませ♪ .....ああ、それではいけません。おちんちんぴーん♪ なさったままでは、さらさらしたシーツに擦りつけて、こっそりオナニー♪ おできになってしまいますでしょう？ ですから、いつものようにおちんちんは後ろに倒して、お隠しになってください.....ええ、お仕置きですから、もちろんご自分で♪

☆息も絶え絶えの体で「ご主人様」がうつ伏せになると、アンジェはベッドに乗り、「ご主人様」の脇腹の横あたりに手をつく。

(07:40)

はあい、よくおできになりました♪ では、わたくしもベッドの上に失礼して.....よい、しょ♪ あらあら、先程まであんなに誇らしげにそそり立っていたおちんちんが、子犬の尻尾のようにお尻の間からびょこっ♪ っと飛び出して、かわいらしいったらございませんね♪ このぷるりとハリのあるお尻だって、赤ん坊のころとほとんどおかわりなく♪ 軽うく、ぺち、ぺち.....♪ うふふ、弾力あるお肉が波打ちますわ♪

☆アンジェはねちっこくあちこちを絡めせると、身をよじる「ご主人様」に覆いかぶさり、意識までも絡め取るように熱っぽい呼吸を交え、耳元で唇を開く。

(08:30)

ふふ、腰をよじって、お逃げになろうとしているのですか？ なりませんよ♪ お嬢様は今から、ご自分よりも身体の大変な変態メイドに襲われておしまいになるのですから♪ ほら、お身体、またがせていただきますね♪ そうしたら、お指にわたくしの指を絡めて.....おててはバンザイ♪ 脱ぎかけおパンツが引っかかったままのおみ足にも、蛇のように脚を巻きつけてしまいませんか♪

(09:15)

そして、ゆっくり身体を倒すと、んしょ.....つかまえた♪ こちらを動かせばあちらが、あちらを動かせばこちらが絡みついてしまって、逃げ出そうとしても逃げ出せません♪ じたばたなさっても、ム・ダ♪ ですから、受け入れてしましましょう.....お腹越しに伝わる体温でぽかぽかして、若い女の甘く漂う体臭を吸い込んで.....それから、お耳の後ろで生ぬるい息と声を受け止めていると、だんだん、だんだん手足に力が入らなくなっていきますね.....ほおら、もうお嬢様はゆっくり呼吸することしかおできになりません♪



☆アンジェはおとなしくなったご主人様の上で身をくねらせる。はじめは全身だったその動きが、次第に腰を局所的にかくつかせるものになっていく。

(10:32)

ふふふ、どうぞ、わたくしの身体の感触もお楽しみになってくださいませ♪ お好きなのは、お嬢様の背中であつちりと広がるふかふかおっぱい？ それともきゃしゃなおみ足にどでんと乗った、むっちりとした太ももですか？ .....当然、違います♪ お嬢様のお気に入りはいこれ.....んっ♪ ぐり、ぐりと不躰に主人のお尻に身をすり寄せてしまっている、ひととき熱い勃起肉♪ もともと朝勃ちしておりました所を、お嬢様の不貞行為に怒って余計にこわばってしまったおしおきチンポ.....♪

☆あきらかに性行為を意識した一定のリズムで股間を擦り付けながら、「ご主人様」を焚きつけるアンジェ。言葉は脅迫そのものだが、にやついた声が妙に蠱惑的な雰囲気醸す。

(11:34)

おしおき.....そう、おしおきですわ。よくお聞きになってくださいね？ アンジェは今から、ここ、お尻の穴を犯します♪ ショーツは着用しておりませんので、少し腰をずらしてスカートを跳ね上げればそのまま生チンポ♪ あとは少しだけ腰をずりずりする角度を変えれば、ずぶずぶと太い怒張が押し入って.....もう、わたくしの好き勝手にケツ穴を弄ばれるだけですわ♪ やめてやめてと泣き叫ぶ声にはもちろん耳など貸しませんし、それどころか口まで塞ぎます、うるさいですから♪

☆アンジェの突如発した優しげな言葉。その本意は、それでも興奮してしまう「ご主人様」の本性を露わにし、それをも掌握したいという嗜虐心の現れだった。

(12:32)

お怖いですか、お悲しいですか♪ そんなに嫌がられるなら、やめてさしあげましょうか♪ ふふ、一生懸命うなずかれて.....嘘つき♪ アンジェはお嬢様のことならお嬢様以上にわかるのですよ.....♪ どうせ、メスになった顔をシートに押し付けて隠しながら、満面の笑みをお浮かべになっているのでしょうか♪ ずっと欲しかったチンポをまんまと受け入れられて、喜びに満ちた嬌声を上げてしまわれるのでしょうか♪ 許しません♪

☆声にぞっとする寒さを滲ませながら、質問という名の強制でもって「ご主人様」に畳みかけるアンジェ。「ご主人様」がおののいて震える様を感じ取り、アンジェの腰の奥がもぞもぞと熱くなる。

(13:23)

いいですか、お嬢様。これが最後です.....では♪ チンポが欲しい。アンジェの太くて硬くて熱いオチンポ、お尻の中に欲しい。そのオチンポでほじくり回されたい。奥まで突かれ

て、女の子のような声を出しながら絶頂してしまいたい。本当ですか。本当ですね。心の底から、アンジェに犯されたいと思っていらっしゃるのですね……♪

☆「ご主人様」のうなづく姿を見て、アンジェは心底嬉しそうに笑う。うやうやしく一言二言告げると、いよいよ菊穴にペニスの先端をあてがう。

(14:06)

ふふ、うふふ、うふふふふふ……！ はい、承りました♪ すぐにオスになろうとしてしまわれる、困ったメスのお嬢様のお仕置き……アンジェとそのふたなりオチンポが務めさせていただきます♪ では、スカートをずらして……脚に体重をかけてお尻を固定して、腰を前に突き出すと……ん、あっ♪ う、ふふ♪ そう硬くなられずともよいですよ……アンジェがしっかりと手を握っておりますから、落ち着いて深呼吸をなさいませ……すう、はあ……すう、はあ……では、入りますね……♪

☆ペニスが少し沈むたび、苦しげな二つの呻き声が重なるように発せられる。手を痛いほどに握り合いながら、アンジェと「ご主人様」は身体を重ねていく。

(15:16)

ん、んう……思った以上の、締め付けです、う♪ つく、う、ん♪ お嬢様も、お苦しくていらっしゃるの、ですねっ……あ、うあ♪ 大丈夫です、わ♪ アンジェの手を、しっかりお握りになっ、てっ……深呼吸しながら、うう、ん♪ 少しずつ奥に……ほ、らっ♪ おわかりになりますか、今、カリ首が、あ♪ お嬢様の中に、入ろうとして、う、んうう……♪ ここ、さえ通り過ぎてしまえば♪ あとはもう、ずるずると、お、お♪ 肛門が、勝手に受け入れてしまいますからね……ふふっ、うう♪ せ、え、の……あ、ああっ♪

☆アンジェのサディスティックな言葉に、「ご主人様」と繋がった喜びが隠しきれず現れている。今にもひとりで動き出してしまいそうな腰を押し留めながら、雄穴を犯されていることを「ご主人様」にしっかり理解させる。

(16:23)

う、ふふっ……とうとう、やってしまわれましたね♪ おしおき、お尻セックスっ♪ んんっ♪ しかも、は、ああ♪ 入れられる側だなんて……ん、あ♪ ふふ、処女喪失、おめでとうございます、お嬢様あ♪ お口もオマンコ、お尻もオマンコ♪ たいへんよろしゅうございますね、ん、くう♪ これからはずーっと、大好きなオスのマラに掘られていけばよいのですもの、んふふっ♪

(17:07)

しばらくは、動きません……あ、んう♪ 召使いなどに屈服して、あっ、あはあ♪ ケツ穴処女まで捧げてしまう悪い子のお嬢様には、まず、たっぷりたあっぷり理解していただきま

せんと、ねえっ♪ お腹の中をびくびく震えるオス肉の塊で征服されるのは、どんなお気持ち、い、ひっ♪ ですか♪ 舌をだらぁんとはみ出させて、シーツに唾液のしみをお広げになっちゃっていることに、んっ♪ ご釈明はございますか……はあ、あっ、ふふ♪

☆「ご主人様」が返事できないのをいいことに、軽口を叩くアンジェ。雄膺の締めつけにも慣れたらしく、軽く腰を引いたりずらしたりして反応を楽しむ。

(18:00)

答えを出すまでもなく、うんっ♪ お腹の中がもぞもぞ、もぞもぞ♪ ピンク色の若々しい肛門が、ぬめった肉をむりゅむりゅとはみ出させて……っあ、あはっ♪ まるで娼婦のようなやらしいおケツ穴に早変わり……♪ ん、ふっ♪ お嬢様ったら、もしかして毎晩毎晩、ああんっ♪ 町へ繰り出しては、下賤なオスどもの汚い肉棒を上になおくわえに、う、んああっ♪ なっているのです、かあ♪ わたくしを誘惑なさったみたいで、や、っあ♪ ちっちゃなおちんちんをぶるぶるお振りになりながら、っは、うああ♪

☆アンジェはゆっくりとピストンを始める。ぎっちり脚を固め、「おしおき」を強調する彼女の顔に浮かぶのはやはり笑みだった。

(18:51)

お嬢様がこれ以上チンポ狂いの処女ビッチになられないように……いい♪ アンジェは心を鬼につ、いえオスにしてっ♪ お尻穴を掘り掘りさせていただきます、ううん♪ あっ……もう処女ではいらっしやらないのですた♪ うふふっ♪

(19:20)

では、腰をゆ～っくり引いて……ずんっ♪ ん、おお♪ はあっ♪ ゆ～っくり引いて……ずんっ♪ う、ふうう♪ ふふ、太マラ突き入れられるたびに背筋がびりびりして……ずんっ♪ ふああ～……♪ のけぞりたいのに、上半身丸ごとアンジェに押さえつけられて、また、ずんっ♪

☆あくまでピストンは止めず、縛めも緩めず、しかし急に甘く囁くような声を出してアンジェは「ご主人様」をそそのかす。

(20:00)

デカチンで無理矢理拡張されるのはさぞお辛いでしょう、お苦しいでしょう……ん、んう♪ ああ、そうですわ……っ、ああ♪ 声をお出しになれば、力をお抜きになれるかと、う、んんっ♪ 「ああ～ん♪」「ひい～ん♪」と頼りなくか細い、少女のような喘ぎ声……さあどうぞ♪ ああ～ん♪ ひい～ん♪ オチンポ気持ちいい～んっ♪

☆アンジェは一度息を大きく吐き出すと、「ご主人様」の手足の拘束を強める。暗示をかけるような妖しい声と苛烈な責めで、「ご主人様」を墮としにかかる。

(20:42)

さあ、さあ♪ 一刻も早くメスになっていただくために、あ、っはあ♪ お身体の中の邪魔なオスの残りを追い出しませんとお、ううっ♪ う、ふっ♪ アナルの、ちょうどお指が届くくらいの深さに……硬あい亀頭で、ぐりっ♪ ん` あ、へえっ♪ お尻、ぎゅうっと締められましたね……♪ これが男の子のアナルの弱点、ぷっくり膨れた前立腺♪ ですわ♪

(21:25)

今まで以上にながちりと手足を押さえつけて……小さなお身体がびくびくお跳ねになるのも、悲鳴のような痛切な喘ぎも無視させていただいて、ぐり、ぐり、ぐり……っ、ぐう♪ うあ`♪ まだ、まだあ♪ 丁寧に丁寧にこね潰し、てっ、しましましょうね♪ う、んうう♪

☆アンジェは「ご主人様」が知らない感覚を覚えるのに先回りし、この不可解な事態は全て自分がコントロールしているのだと知らしめる。

(22:00)

あ、あは、あっ♪ ふふ、このお尻の内側でぽこおっ♪ っと膨らんでいる、前立腺の中にはあ……お嬢様の新鮮おザー汁が、ぎゅーっ♪ っと、お、おお♪ 詰まっているのです、よっ♪ ん、ふふ、っ♪ ですから、こうして何度も、おっ♪ 前立腺を潰されている、と、んん、はあ♪ おちんちんの根元がぼわぼわ~♪ と熱くなってきて♪ あは、あ、うんっ♪ ……腰から力が抜けていきます、でしょうっ♪ それから、急に、っや、うあ♪ おしっこが出そうになってしまわれる……そうですわよね、っへ、ええ♪

(22:53)

あ、っくう♪ お尻マンコをぴったりとオチンポにフィットさせ、て、うあ、あはっ♪ 女の子の喘ぎ声をお出しになってしまうお嬢様に、い、ひいっ♪ メスのとろけた肉穴の奥でっ、びゅうっ♪ っと吐き出すためのオス汁など、必要ございませんので、ええ♪ こうしてアンジェが、前立腺を、チンポの裏側を、ぐりぐりぐり……♪ ん、んっ♪ 直接チンポ汁の詰まりをほぐして、お嬢様のお身体の外に出ていくお手伝いを、お、ううっ♪ させていただいて、いるのですっ♪

☆「ご主人様」の前立腺を容赦なく突き回し、その嬌声を聞いて満足げな表情を浮かべるアンジェ。児戯じみた言い回しで「ご主人様」の脳に単純な快楽を染み込ませる。

(23:39)

ほおら、ほらあ……早く、お嬢様の中から出ていってくださいまし、いい♪ ん、うおっ♪ シーツに寝転んだ女の子ちんちんの先っぽから、とろとろ、とろとろ♪ あ、んっ、はあ♪

さらさらとした不良品の精液が……っ、んう♪ はあ、うあっ……こんなに、極上のお尻マンコをお、おほ、おお♪ 持っていらっしゃるお嬢様には、こんなもの必要ございませんっ♪ あゝっ、うう♪ ふあああ、ほらっ♪ 最後のお射精をなさいませっ♪ オマンコスイッチ押しますから、無用で無駄なお精子、全部出して、ええ……～っ♪

☆アンジェは「ご主人様」が前立腺の刺激に慣れないように責めを多角的なものにしていく。妖しい熱が声にこもり、「ご主人様」を開発するのが楽しくてしかたないのが伝わる。

(24:25)

ふ、ふふ♪ お尻以外の場所にも、協力を仰ぎましょうね♪ もう力の入らないおててを  
いったん離して、パジャマのすそからアンジェの指を、忍び込ませて……ええ♪ あら、あ  
らっ♪ お胸のこれはなにかしら♪ んっ、ううう♪ 指の腹で持ち上げると、こりっ♪ 挟む  
と、ぷにっ♪ 力いっぱい引っ張って、むぎゅうう～っ♪

(25:05)

あ、あはああ♪ それ、がつ♪ お嬢様の乳首声なのですね、っへええ♪ こっそり隠れて大きくなった、硬くて柔らかくておスケベなお乳首、しかもふたあつ、んんっ♪ 両方一緒に、こりこりこり……んく、うあ♪ ふにふにのおっぱいお肉ごと、もみ、もみ、もみ♪ ん～っ♪ ふ、うう、ううん♪ ぐちょ濡れおケツ穴とうっかり勃起乳首にいたずらされて、そんな……あ、あっ♪ 子猫が甘えるようにみいみいお鳴きになって、へ、え♪

☆覆いかぶさった体勢のアンジェは、次なる標的……真っ赤に染まった「ご主人様」の耳に顔を寄せる。唾液を含んだ唇と舌で、形のよい耳を舐めしゃぶり、湿った音を立てる。

(25:55)

お返しに、アンジェも……おお♪ 聞かせてさしあげ、ますねっ♪ ん、ふふふ♪ 御髪から無防備に飛び出した真っ赤なお耳を、ぱくうっ♪ んっ、むぢゅ！？ はあ、っあんっ♪ も、もう……お耳、敏感、だから、っえ、えへっ♪ いきなりおケツマンコが、ぎゅっ♪ って、してええ……♪

(26:35)

はあむ、むちゅ♪ れえるう……ちゆるるっ♪ くちや、ぬちやあ♪ んふっ♪ これが、お嬢様の直腸のお肉がぬちやぬちやとわたくしの亀頭を舐め上げる音♪ それから、ちゅぶっ♪ ちゅう、ずずっ♪ んえっ、んむ♪ ちゅぽっ、ちゅぽっ、ちゅぽおっ♪ ん、はあっ♪ これは、おケツマンコの入り口をがっがっほじくり返されてしまう音、おっ♪

(27:13)

そして……くちやくちやくちやくちやくちやくちやつ♪ う、ふふっ♪ 何の音でしょう♪  
はっ、んっ、くちやくちやくちやつ♪ 正解は、あっ♪ わたくしのお睾丸の中で、元気な

お精子がどんどん生まれてくる音、ですわっ♪ ぐちゃ、ぐちゃあっ♪ お嬢様の温かなオマ  
ンコ肉の上に、びゅーっ♪ っと飛び出したくて、新鮮なオス子種がぴちぴち、うようよ  
.....ぐちゅ、むぐ、んぐちょっ♪

☆アンジェは淫猥な遊びに興じたかと思うと、今度は突き放す。どちらにせよ、その口舌奉  
仕が性器に施すような執拗なものであることに変わりはなく、むしろ冷静な口調が滑稽です  
らある。

(28:10)

なあんて、ふふっ♪ そんな音、聞こえるわけがございませんわよね♪ ぷちゅ、む  
ちゃあ、れるるう.....♪ んっ、あっ、んくっ♪ 全部、お嬢様のお耳が、ぴちゃっ♪ 舐め  
られたり、しゃぶられたり、くちゅ、ちゅずうう♪ 吸い上げられてしまったり、して、  
へえ♪ お立てになっている、ぐちゃあ.....はああっ♪ 淫らなお耳セックス♪ の音でして  
よ、ぜえ〜んぶ♪

☆アンジェは耳に口づけ続けながら、横目で「ご主人様」の顔を眺める。貪欲な狩人の色を  
瞳に浮かべると、片方の乳首から指を離し、一度指先をしゃぶる。

(29:04)

ん、うう、んっ♪ あっ、はっ♪ お尻をごりごり♪ 乳首をこりこり♪ お耳をぺちゃぺ  
ちゃ♪ 身体中いやらしいメイドのおもちゃにされてしまって、むぢゅ、ちゅるるう♪ おち  
んちんさえもお射精を忘れて、もどかしいお漏らしをお楽しみになるばかり♪ ん、ふふ♪  
っくう、んはああ♪

(29:52)

ふ、ううん♪ 快感の逃げ場が、どこにもなくて.....お顔、っ♪ おめめをごろんとでんぐ  
り返しして、お口はぽかんと開いたまま♪ とてもアンジェ以外には見せられない恥ずかし  
いアヘ顔、素敵です、わあ、あはあっ♪ そんな表情を、チンポをいきり立たせたけだもの  
の前で無防備にお晒しになると、ん、んっ♪ お指が、片方のおっぱいを離れて、ふらふら  
と漂って.....首筋？ お耳？ ちゅ、ぷっ♪ では、なく.....力なくだらりとはみ出た舌、  
があ♪ つままれて次の餌食になってしまうのですよお♪

☆アンジェが軽く舌を引っ張っただけで「ご主人様」が痙攣し、振動が繋がっているアン  
ジェの身体をも襲う。アンジェの息は切れ切れになり、崩れた喘ぎを漏らす。

(30:52)

ふふっ♪ 舌は人間の身体でいちばん感度の高い部分だそうですよ、お嬢様♪ ですから、  
こうしてゆっくり舌を引っ張、って、ふう.....ん、んん〜っ♪ 息を吹きかけられたお耳っ♪  
のっ、おお♪ びくびくがっ♪ ああああ♪ 全身に伝わって、お乳首が、ぴいーんっ♪ ん

はっ、うあ、あええ♪ お、おケツ穴もお、おん♪ ずきゅずきゅ疼いて、チンポ交尾、きつくなりゅ、ううっ♪

☆アンジェは「ご主人様」のほぼすべてと言える性感帯を手中に収めて、全身を震わせる。一言一言をピストンのリズムに合わせるようにして、本来最も重要であるはずのペニスだけを疎外するように誘導していく。

(31:42)

ほ、おおおっ♪ お嬢様の、んお♪ お感じになる部分……っ♪ ぜえんぶアンジェの指と、お口と、オチンポに食べられてしまっ、んじゅ、ずじゅるうっ♪ 反対のお耳も、見逃してさしあげませ、んっ、ずちゅ、るるっ♪ え、れるっ、ちゅく、るう♪ あああ♪ 喘ぎ声もとろけて、何をおっしやっているのかもわからないのに……っぐう、んっ♪ おキンタマの芯に、ずんずん響きます、んあ、ああっ♪

(32:36)

う、うふふっ♪ こんなに気持ちのいいお身体を、はむ、むちゅうう♪ んんっ♪ していらっしやるのですから、おちんちん、いりません、ねっ♪ うっ、んはあ♪ んじゅる、ううん♪ ほ、らあ♪ ぱん、ぱん、ぱんっっ♪ ぶっといオチンポでお尻、ひっ、いい♪ めちゃくちゃに、しますからああ♪ んや、あんっ♪ オチンポ、ねっ♪

☆もはやアンジェ自身でさえも腰を振っているのか痙攣しているのかもわからないまま、執拗に腰を打ちつけ続ける。だだをこねる子供を思わせる嬌声とやみくもな身体の動きは、言葉とは裏腹に、アンジェの「ご主人様」にすがりつくような姿を露わにしていた。

(33:08)

はい、はひい♪ おちんちん、いらないつ、いらな～いつ♪ お乳首もお耳も舌もっ、んぐう、うあゝ♪ 股間と繋がって、甘あい痺れ、がっ♪ キンタマの底をかき混ぜ……てえ、ええ♪ お嬢様のお身体があ、んう、ああ♪ 「わたし女の子なんだあ♪」って理解、なさって♪ はぶっ、んっんっんっ、じゅるう♪ おじょおしやまには、いらにやいつ♪ おちんちんなんて、へえ♪ いらにやいれしゅ、わあああっ♪

(33:45)

んは、あああ♪ も、もう空っぽになりましゅ、ねえっ♪ んっ、んう♪ 前立腺ぎゅうっ♪ って縮まって、もうおせーしはストップ、う♪ おちんちんっ、うっぐ、ふうう♪ おちんちん、ただひくひくするだけの……お、おっ♪ かわいいアクセサリーに、なりまひゅねっ♪ そう、したら、かわりにいい♪ アンジェのあちゅくて、濃ゅうい♪ おキンタマミルクでええ♪ いっぱい、いっぱいっ♪ おひりオマンコお♪ いっぱいにしましょうね、っへえ、ええ♪

☆アンジェは舌足らずにまくしたてながら、ペニスの特に感覚の強い部分を擦りつけるような動きを繰り返す。それはすなわち、「ご主人様」にとっては前立腺を擦られ続けるということであり、互いの快感が連鎖して目の前が真っ白になる。

(34:20)

あゝ おお♪ すぐ出っ、すぐ、出ますからあ♪ だから、んなああ♪ お耳をぱつくん、ひてっ♪ んちゆるるっ、むひいつ♪ お乳首も、きゅう♪ って、ちゅまんてっ♪ 舌っ、んみゅっ♪ っへ、引っ張って、へえ、んむ、ぢゆるう♪ んんっ♪ ひたらっ♪ そしたらびゅうーっ♪ って、なからして、けちゅまんこもイってへえ♪ もお、お嬢ひやまのオチンポはあ、終わられしゅっ♪

(35:03)

あ、ううっ♪ チンポぐんぐん太くなる、のにい♪ 腰っ、止まってくれにや、ひいい♪ 来てるっ、きてりゅ、きてましゅう♪ んんええ♪ 中出し汁っ♪ 種付けせーしっ♪ キンタマ、ぶくろお♪ 空っぽになるまで、出し、まひゅわあ♪ ひぐっ♪ イっく、イぐう♪ はあむ、んもっ♪ なからひ、なからひ、なかりゃひいい♪ お、お嬢しゃまのオマンコにっ♪ んっ、んむうう~~~~っ♪

☆繋がった二つの肉体は、完全にタイミングを一つにしてびくびくと震える。部屋にはじっとした空気が満ち、とぎれとぎれの喘ぎ声とその隙間を満たす。

(35:36)

んんう~~~~っ♪ ふう、ううう.....♪ んひっ、い、ぎいつ♪ ふっ、ふっ、ふっ、んっ、ぐっ♪ んふうっ、は、あああ.....オチンポ穴っ♪ ち、力あ、入ら、にやつ.....んお、おお~.....♪ おゝっ、出りゅっ、うう♪

☆アンジェは脱力した四肢を「ご主人様」に預けたままゆっくりと息を整える。しばらくすると身体を起こし、汗ばんだ前髪をかきあげる。なんとなく弛緩した雰囲気漂う。

(36:14)

.....っあ、ああ、はああ.....ひとまずは治まり、ました、かしらっ？ ゆっくり身体を起こして.....ん、しょっ。 オチンポも、抜きますわね、ん、んっ♪ あら、あらあ.....青臭くて淫らなおいがあたりに充満して.....う、ふふ♪ お嬢様の「それ」も、たくさんお漏らしおできになったのですね♪ シーツに大きな染みとは、おねしょをなさっていた頃以来ではないですか.....♪

☆アンジェは「ご主人様」の尻穴の痴態を目にし、「ご主人様」が動けないのをいいことに好き勝手にはやし立てる。



(37:06)

あ、あらあらあら♪ 痙攣なさっているおケツ穴から、わたくしの中出しチンポミルクがこぼれて……たまたまの裏側、ふにゃふにゃのおサオ、と流れて……お嬢様のお漏らし染みまで上書きしてしまいましたわ♪ これで、お嬢様の「それ」がオチンポだった証拠はきれいさっぱりなくなりました……うふふっ♪ 少し意地悪すぎたでしょうか。申し訳ございません♪

☆メイドとしての本分を取り戻したようにはきはきと喋り、てきぱき働くアンジェ。しかしその下腹部では熱の治まらないペニスがまた首をもたげようとしているのだった。

(37:41)

さて、お片付け、お片付け、と……そうですね。シートでお嬢様のお身体を丸ごとくるんで、そのままわたくしが抱っこしながらお風呂場に運んでさしあげればよいのではなくて？ お嬢様はお身体もお服も洗えて、わたくしはお嬢様に密着できる……自分の有能さが恐ろしいですわ。それに、お風呂場ならどんなに汚れてもすぐにきれいにできますし……なんて♪ 冗談……かもしれませんわね♪

#### 第4話 ごほうび

☆宵の深まる頃。アンジェは「ご主人様」に布団をかけ、静かに微笑む。部屋を去ろうとベッドの側から立ち上がると、「ご主人様」にスカートのすそを掴まれる。

(00:00)

はい、今日もお勉強に、運動に、たいへんなご活躍でした。お布団をおかけしますね……さぞお疲れでしょうから、ゆっくりとお休みくださいませ。それでは、わたくしめはまだ少々雑務が残っておりますので、失礼いたします……あら♪ いきなりスカートを掴まれては、生地が伸びてしまいますわ……♪

☆アンジェは寸刻前とは裏腹に、およそ貞淑なメイドには似つかわしくない暗い笑みを浮かべ、「ご主人様」に向き直ると、ゆっくりと撫で上げるように尋ねる。

(00:34)

ふふ、どうなさいました？ お眠りになるまでアンジェが控えておりましたか、それとも、お腹をとんとんと叩いて安眠を誘いましょうか。それとも……「添い寝」が、ご必要ですか？ ……ふふ、そんなにこくこくと頷かれなくとも大丈夫ですわ♪ 承りました。今宵も不肖アンジェめが、お嬢様の伽を務めさせていただきます……♪

☆アンジェは器用にかけ布団の下に滑り込み、すぐ横に寝そべる。ごそごそと手を動かし、悩ましく声を漏らしながら服を脱いでいく。

(01:12)

では、ベッドに……よい、しょ。ふふ、不調法にも、お嬢様のお側にごろん、と寝転んでしまいました。ただの添い寝であれば、これでよろしいのですけど……♪ はい。服を、脱ぎますわ♪ お嬢様にお手伝いは……必要、ございませんね♪ お嬢様はもう十分「大人」でいらっしゃいますものね♪

☆悪戦苦闘の末に服を脱いだアンジェは、あまりに正直な自らの下半身に赤面する。しかしすぐに持ち直し、照れ隠しめいた所作で「ご主人様」に覆いかぶさる。

(02:00)

あとは、ショーツに足首を、通して……よしっ。あら？ あっ、ご、ごめんあそばせ♪ わたくしのお肉マラ、すでにぱんぱんの完全勃起状態でして、その、お恥ずかしながら……まあ！ そんな、呆れた目でご覧になる意地悪なお嬢様は……こう、ですっ♪

☆アンジェは貪欲な狼の皮をかぶり、よだれを垂らしそうな勢いで眼下の「ご主人様」を威圧する。小さく腰を動かし、ペニスを「ご主人様」の腹にすりつける。

(02:30)

ふふ.....お身体の両脇に手をついて、四つん這いになりました♪ おっぱいでお見えにならないかもしれませんが、柔らかいお腹に、ぺち、ぺち♪ 当たってしまっておりますわね.....このぶっといお肉棒、お嬢様のお股のところから、あ、はあっ♪ 軽くおへそに届くくらいに長あく伸びて、お嬢様のよわよわ包茎クリトリスをどでんと踏み潰してしまっているのですよ♪ .....何度もお教えしましたわよね？ オチンポを勃起させてしまったメスは、自分の身体で責任を取らねばならないのですよ.....ん、ぐうっ♪

☆アンジェは「ご主人様」から目を離さず、腰をじりじりとにじらせてペニスの先端を菊門にあてがう。劣情を表してしまうご主人様をアンジェは見逃さず、ゆっくりとした口調で煽りたてる。

(03:20)

さて、どのようにこの怒張をお治めいただけるのですか？ おてて？ お口？ .....こんなふうにつりつきたいやらしい裸身を晒しておいて、そのようなわがままは通りませんわね、ふふふ♪ では腰を、後ろに下げてえ.....ぴとっ♪ んんっ♪ あら、今.....お尻穴をむにゅ♪ と盛り上がらせて、先端が少し触れただけのお肉マラを自分からくわえこもうと、っ、んっ♪ なさいましたね♪

☆アンジェはペニスを押し込むかに見えて、狭い雄穴を亀頭が通り抜けるほどの力は加えない。物足りなさそうな表情を浮かべる「ご主人様」に主導権は渡さず、周辺からさらに性感を高めていく。

(04:05)

ゆっくりと腰を揺らして、ずうり、ずり♪ .....んっ、ふふ、柔らかい、ですわあ♪ ああ、そんなに熱い視線を向けられると、一気にずぶり♪ と、うう、んっ♪ オチンポ押し込んでしまいたく、なりますけれど♪ メイドにそんな勝手は許されませんわよね♪ くちゅ、っぽ♪ こおんなにお乳首を、こりこり♪ と硬くされていても.....唇の前に差し出した指を、ちゅう、ちゅう♪ と甘えるみたいにお吸いになっても、んあ、あっ♪ それこそ、「お尻犯してえ♪」とご命令でもいただかない限りは.....♪

☆アンジェは身を乗り出し、至近で「ご主人様」の顔を覗き込む。甘い息をたっぷりと含んだ声を浴びせかけ、欲するものを好きなだけ受け取ろうと強欲にたたみかける。

(05:05)

どうなさいました、お嬢様？ うふふ、ふにゃふにゃと仰っているばかりでは、わかりかねますわ……肛門を、ちゅっ♪ 喘ぎ声はしっかりとお出しになれるのですから、もう少しです……はい、お尻を？ とろけたお尻の穴を、どうしてさしあげればよろしいのですか♪ まあ♪ 犯して、とはずいぶんと大胆でいらっしゃいますね♪ おキンタマがうずうずしてしまいます♪

(05:43)

ふふ、ふう♪ まだ、大事なことが残っていますでしょうか？ 誰ですか？ お嬢様のメス穴をほじくってさしあげるのは、だあれ？ ……アンジェ、とは、わたくしのことでしょうか……お嬢様は、そのアンジェのことをどうお思いですか？ どんなアンジェに、お尻を掘られたいのですか……「大好き」、でしょうか？ 大好きなアンジェに掘ってほしくていらっしゃるのでしょうか♪ でしたらちゃんとお言葉になさって♪ アンジェ、大好き♪ アンジェ、大大大好き♪ もう一回です♪ アンジェ、大大大大だいすきっ♪

☆弾かれるように、緩んだ尻穴にペニスを挿入するアンジェ。とろけるような幸せが声に、表情に、アンジェのすべてに現れている。

(06:34)

もお～～～っ♪ お嬢様っ、愛しすぎですわああ♪ オチンポ入れてほしすぎて告白までなさるなんて、ああ、もう！ もう、い、入れますわよっ♪ はっ、はあっ♪ お嬢様っ、しっかりわたくしを見てくださいますし♪ ではっ♪ せーの♪ で犯してしまいますから♪ 一緒に、せーの♪ しましうねっ♪ それでは……せ・え・のっ♪

☆アンジェは高いななくと、目を潤ませながら「ご主人様」の手を硬く握る。メイドとしての本分に立ち戻り、「ご主人様」の感じる部分を探すようにゆっくりとピストンする。

(07:11)

ああ、ああああんっ♪ オチンポっ、勝手にずぶずぶ飲み込まれ、てへえ♪ んあ、あ、あらあら……お嬢様も、わたくしも♪ エッチな声、出てしまい、ましたねっ♪ は、ああっ♪ ですけれども、おっ♪ お嬢様のお尻穴に大きなオチンポ入れて喜ぶメイドと、んはあ♪ そのメイドのオチンポに小さなお尻穴をぐっぽり詰められてお喜びになるお嬢様、のお♪ 変態どうしお似合いラブラブ交尾♪ ですもの、競うようにセックス声を上げてしまうのもむしろ当然っ……んん、う～っ♪ です、わあ♪

(07:56)

おてても、あっ、んぐっ♪ お指も、お指セックスもしてしましましょうねっ♪ さあ、アンジェの手の平にお嬢様の手の平をお合わせになって……ぎゅっ♪ はあ、あああ♪ 柔らかくて小さくて、温かいお指い♪ わたくしの指で、んあ、んふっ♪ 無遠慮に舐め回してさしあげます……ふふ、ふううっ♪ お尻もおてても、けだものオチンポメイドに食べられておしまいになるご気分はっ、んんっ……伺うまでもございませんね♪

☆アンジェは掘り当てた前立腺をとんとんとつつきながら、下腹に目をやる。静かで慈愛に満ちた声の調子が、かえって「ご主人様」の羞恥を沸き立たせる。

(08:36)

あ……ここ♪ 腫れぼったい直腸のお肉の中で、すでにふわふわと盛り上がった、ぜ・ん・り・つ・せ・ん……指と指をちゅっちゅっと絡ませながら、とん、とん♪ とん、とん♪  
ん、っぐ……よろし、かったですねっ♪ 勃起オチンポに見つけてほしくて、いたずらされたくて、っはあ、あっ♪ 健気にぽっこり膨らんだまま、隠れていらっしゃったんですもの、ねえ……とん、とん♪ ふう、うっ♪ 十分にとんとんしてさしあげますわね、ふふっ、とん、とん……♪

(09:23)

あ、んっ♪ くっ、ああ♪ おててを捕まえられておしまいだから、お身体をよじって逃げ出すことも、逆にお尻を押し付けて独りよがりになケツアクメに達することもおできになりません……ん、う、ふふふっ♪ 先汁に湿った亀頭が、とん、とん♪ 女の子スイッチにちょうどいい角度で当た、ってへえ♪ オスに抱かれる幸せが、脳みそとお股をとろおんととろかして、は、うああんっ♪ ぼうっとして、ご自分の鳴き声が遠く聞こえるばかり……♪

(10:04)

ほおら、お嬢様の偽物クリトリスは……もう勃起なさることすら忘れて、んっ、ふうう♪  
ほどけた包皮の先端から、ぱたっ♪ ぱたたっ♪ メス汁を、う、ん、うあ♪ 弱々しく飛ばしていらっしゃいますわ……ああ♪ とんとんとん♪ とんとんとん♪ ん、んん～っ♪  
ふ、うう♪ お漏らし、お止めになれませんかわね♪ 前立腺がずうっとお汁でいっぱいだから、押しつぶされると、っ、ほおっ♪ クリチンポ穴からとぼとぼ溢れて、っくう……とつても素直で気持ちのいいお身体をしていらっしゃるのですね、お嬢様は♪

☆アンジェはにやにやと笑いながら身体を倒し、「ご主人様」を甘い色香と柔肉の中に一方的に覆い隠してしまう。見えないのをいいことに腰の動きに変化をつけ、「ご主人様」を悶えさせる。

(10:53)

あら、あらっ♪ お口をぽかぁんと開け放って、唾液までこぼれたまま、んっ、ぐう♪ だなんて、そんな不用心なト口顔を遠慮なくお晒しになると……ふあ、ああっ♪ わ、たくし、のっ♪ 身体が、前に倒れて……まあ♪ お嬢様がすっぽりと谷間に埋まってしまいました♪ ん～っ♪ むちむちのおっぱいに食べられてしまったお嬢様もたいへんにおかわいらしく、ううっ♪ は、ああ♪ いけませんっ、腰っ、勝手にかくかく動いて、っんう♪ これではまるで、お嬢様をお手軽オナホール扱い♪ あああ、ケツ穴キツキツですわあっ♪

☆アンジェは変態じみた思考のもと、ペニスとは違う濃いメスの香りで、「ご主人様」の思考を使い物にならなくしていく。独占欲が首をもたげ、アンジェのペニスがまた太くなる。

(11:43)

っ、ふふ♪ アナルを突いてさしあげるたびに、んひっ♪ おっぱいの間に、ふうふうと必死な呼吸を感じ、て……ん、くすぐった、はぁ、うあっ♪ お嬢様っ♪ 汗に濡れた乳肉がべちゃりとお顔に張り付いてお苦しいでしょうが、がんばって息をお吸いにならなくては、窒息されてしまいます……から、あぁ♪

(12:11)

そう、そうですわ、あぁんっ♪ 汗の溜まりがちな谷間で蒸し上げたアンジェのメス臭、たあっぷり……ふ、ふう♪ お顔で受け止めながら、お味わいになってくださいませ、ええ♪ う、ふふっ♪ お腹やお喉といったお身体の内側には、んっ♪ 発情チンポから立ちのぼる獣じみたにおいだとか、色づいた湯気をぷんぷんと振りまく、生臭いお睾丸汁のにおいをしっかりと……お、おんっ♪ 染み、込ませてえ♪ 外側は、こうして、こうしてえ♪ 淑女らしく、メス臭くなってしまうでしょうねっ、うくう、うああっ♪

☆アンジェは「ご主人様」の呼吸によって上下する腹部と自らの間で「ご主人様」のペニスを圧迫し、あらためてその存在をメスに染め上げようとする。

(12:59)

もちろん、こちらにも……っ♪ ん、うう♪ うふふ、お勃起よりも前立腺液お漏らしに忙しい、お嬢様のショタクリトリス様、あ、んやあ♪ はぁ、っはぁ……オスのおペニスではございません♪ という、ことがっ♪ はっきりわかるように、お腹とお腹の間でずりずり、にちゃにちゃ♪ 転がし、っえ、へえ♪ 何度も何度もオナナの甘ったるいにおいをすり込みながら……また、とん、とん♪ あ、あゝっ♪ う、んっ、ぐうう♪ 不意打ち前立腺いじめで、んっ、やああ♪ また、淫乱なメス鳴き声お出しになって……♪

☆アンジェは「ご主人様」を暗闇に閉じ込め、抑揚に乏しい言葉を浸透させていく。すでに堕ちている「ご主人様」は弱々しく震えるばかりで、抵抗のできるはずもない。

(13:42)

お嬢様は、アンジェの身体に閉じ込められて、音も、においも、気持ちよさも……わたくしに与えられるだけ♪ ん、んっ♪ もうほとんど何もお考えになれないけれど、大好きなアンジェにお尻オマンコを掘られる痺れた快感……♪ それだけがぼんやりとお頭に浮かんで、しかもアンジェの声が頭上から聞こえてきます……はぁ、あぁ、幸せ♪ メスになって大好きなアンジェに抱かれるのは、とっても幸せですね……♪

(14:19)

おてて、お顔、お腹、それからお尻……全部アンジェに満たされて、幸せで、温かくて……ですから、こう、んんっ♪ いやらしくうねる腸内から、ぬるぬる♪ とマラを引き抜こうとすると、怖くて、怖くて、ふあ、ああっ♪ 肛門、がっ♪ 痛いくらいに肉サオを締めつけ、てへえ♪ ……っ、はあ♪ 大丈夫ですわ、すぐに、ずぶずぶ、ずぶ、うう♪ ん、ふ、ふふ、元通り♪ は、ああん♪ まるで恋人の手触りを確かめるみたいに、きゅうきゅう♪ お尻の粘膜で亀頭っ、お撫でになっ……うああ♪

☆しかしこうした言動の根底にあるのは、アンジェが「ご主人様」を徹頭徹尾愛し続ける、その感情である。二人は言葉が意味をなさない領域にまで至り、切実な喘ぎを漏らしながら互いの存在を静かに貪り合う。

(15:09)

もう、ことさらに突いたり擦りつけたり、しなくたって……んっ♪ オチンポが、ぴく、ぴく♪ と震えるだけで♪ おケツ穴が、きゅん、きゅん♪ と疼くだけで♪ 指と指を、絡ませあうだけで……心臓の、鼓動を♪ 感じるだけでえっ♪ うう……ふうう♪ つあ、はああ……っく、んん♪ お嬢、様……っ♪

☆しばしの沈黙を経て、アンジェが身体を起こす。その顔はかつてないほど紅に染まり、声は高まりすぎた性感に泣き濡れるように震えて、なんとか言葉を形にしているといった趣。「ご主人様」もおおよそ同じ様子だった。

(15:38)

……身体を、起こします、ね♪ ……ああ、お嬢様っ♪ どうか、どうかアンジェめに……口づけを、お許し、ん、ああ♪ くださいませっ♪ はぶっ、むちゅ、ちゅう♪ んっ、はあ、あむう♪ 舌っ、舌も、お出しになっ、てえ、ちゆるう♪ がぶ、んぢゅ、ぢゅずっ♪ ちゆる、れるるう♪ は、あんっ♪ あ、甘くて、とろけて……♪

☆「ご主人様」の身を賭した好意表現によって、再び、そして最後の抽送が始まる。どちらの身体もがくがくと揺れ、互いがいなければすぐに崩れ落ちてしまうに違いない。

(16:23)

ああ、あああ♪ お嬢様の脚、脚がっ♪ わたくしの胴体に巻きついて、噓っ♪ だいしゅき、ホールドお……♪ そんなことをされては、うっ、んああ♪ お嬢様のお尻も浮い、てっ♪ ベッドに乱暴にお身体を押し付けるようにしないと、ピストン、できませんのにつ♪ ん、むちゅっ♪ ペちゃっ、む、はあ♪ お嬢様、お嬢様ああ♪

☆アンジェは肉と肉が溶け合うほどに腰を激しく打ちつけながら、赤裸々な愛を口にする。後先を考えることもないむき出しの感情、それから嬌声が高く部屋に響く。

(16:55)

ちゅぷ、くちゅう、ぬちゃ、あはあ♪ 掘られて、へ、ええ♪ メスになってしまわれる側のお嬢様が、だいしゅきホールド、だ、なんて♪ ひ、いい♪ イヤですっ♪ だってアンジェのほうがお嬢様だあいしゅきですもの、おお♪ ほらっ、だいしゅきピストンだからこんなにお尻の奥に届く、んあ、ああ♪ ですよっ♪ あ、ううんっ♪ はあっ、だいしゅきオチンポお♪ だいしゅきおケツ穴、にいつ♪ しゃぶしゃぶしゃれて、へえ♪ だいしゅき我慢汁……やだっ♪ だいしゅき我慢なんていたしましえんっ、うああ♪

(17:39)

はあ、あっ♪ らめっ♪ だいしゅきしゅぎてっ、こぼれ、まひゅっ♪ ん、んふっ♪ おじょう、しゃまへの、あ、ああ♪ だいしゅきを、いっぱい、いっぱいっ♪ だいしゅきキンタマで煮詰め、たっ♪ だいしゅきオチンポミルクうう♪ たあ～くさんお腹の、おっ、おおお♪ 中に出ひて、さしあげる……んれしゅっ♪ ふあ、ああああ♪

☆結局のところアンジェは「ご主人様」が好きなだけなのであって、蠱惑的な態度も嗜虐的な行動もその思いの前には吹き飛んでしまう。アンジェは粘液の混ぜ合わせられる淫らな音をことさらに大きく立てながら、絶頂へのぼりつめる。

(18:06)

もいっかい、お口っ、失礼しまひゅっ♪ んあ、あぶっ、ぷあ♪ んはあ、あんっ♪ むちゆる、くちゅ、ぷちゅっ♪ ちゅず、るるう♪ 上のお口も、下のお口も、とろ、とろっ、でえ♪ ごめなしゃっ♪ きっとアンジェたくさんお漏らししまひゅ、かりやあ♪ やあ、ああっ♪ お嬢様のお腹もくるひくて、ぜんりっ、しえんもお♪ ペしゃんこに、なっしまひゅっ♪

(18:40)

でもっ、アンジェのおてて、くちゅっ、んん～っ♪ しっかり握ってくだされば、はあむ、ぶちゅっ♪ 一緒、いっしょにい♪ 気持ちよく、ううん♪ なれまひゅっ♪ だかりやっ♪ もっとぎゅっ♪ ってひて、ちゅう♪ って、ひてくらしやいまひえっ♪ ん、ちゅ、ぢゅうっ♪ ひぐう、いつ、イぐっ♪ ぱんぱんぱんぱんだいしゅきセックスっ、ぷちゆる、るう♪ きもひくてっ♪ おじょおしゃまといっしょに、いつ、んぐっ♪ イきまひゅっ♪ オチンポでりゅっ、ぢゅ、ぢゆるるるるううう～っ♪

(射精)

☆アンジェは射精の激感に意識をもうろうとさせながらも、腰も口も止めようとしない。そのたびに快感は増幅し、また二人の肢体を痙攣させる。



(19:29)

っあゝ ああ♪ うむ、ちゅぷっ♪ イってっ、チンポどくどく脈打って、へええ♪ うあ  
あっ♪ キンタマのお汁びゅううう～っ♪ して、ましゅ、んんっ♪ はむ、むちゆるるっ♪  
申し訳ごじゃ、ああああっ♪ アンジェは、も、もお、おばかさんなのでっ♪ お射精しても  
ハメ腰、っひいい♪ 止まりましえんっ♪ ちゅう、ずずるっ♪ イキ途中のオチンポ、お嬢  
様のびくびく穴でこしゅっ、てへえ♪ おタマ袋っ、空っぽにする、んれしゅう……ん  
ひや、ああ～っ♪

☆最後の波が身体を通り抜ける瞬間、アンジェの上体が大きくびくつく。そのまま脱力する  
と思いきや、当然のように「ご主人様」の唇に唇を重ね、悪びれることなくとぼけてみせ  
る。

(20:22)

うゝ、うう……うゝっ♪ はっ、はああ……あく、ちゅっ♪ ちゅむ、ちゅふる、れるうう  
……♪ ぶはあっ。お嬢様の恥ずかしい姿、たくさん拝見してしまいました♪ そのせいで、  
んっ、ふふ♪ こんなにたくさんお射精したのに、メイドチンポ、治まらない、ので  
す、うっ♪

☆アンジェの含みのない笑みと朗らかな声そのままの勢いで、ペニスは硬さを保ち続ける。  
「ご主人様」は混乱から抜け出す間もなく、さらなる淫蕩へと巻き込まれていくのだった  
……

(20:56)

はい、まだまだ抜いてさしあげません♪ だってこれは、「添い寝」ですもの♪ うふふ、  
これからは、お休みになるときもお布団の代わりにアンジェがお嬢様に乗っかって、気を失  
うまで犯してさしあげますし……お嬢様より早く起きて、前立腺刺激でばこばこ目覚まし♪  
起きてから眠るまでオチンポづくしのメスづくし♪ アンジェと一緒に、これからもたあ  
～いへん気持ちよくなってしまうでしょうね……ね、お嬢様っ♪